

2025 年度研修会実施録

公益社団法人 長崎県看護協会

研修センター

目 次

I. 2025 年度研修実施概要	-----	1
------------------	-------	---

II. 2025 年度受講者概要	-----	4
------------------	-------	---

III. 実施報告

研修分類 1. 専門職としての活動の基盤となる研修

・ 感染管理	-----	6
・ 感染症の基礎知識と感染対策①	-----	7
・ 感染症の基礎知識と感染対策②	-----	7
・ 研究計画書を作ってみよう～看護研究の基礎から学ぶ～	-----	8
・ 認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	-----	8
・ 看護の現場ですぐに役立つ看護記録～伝わる記録のコツと書き方～	-----	9
・ 感染症の最新動向新興ウイルスと感染予防対策	-----	9
・ 職業感染防止の実際・侵襲的な器具や処置の感染予防対策	-----	10
・ 地域と病院をつなぐ外来看護～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～	-----	10
・ 呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸①～フィジカルアセスメント～	-----	11
・ 医療・看護における倫理～倫理的問題とその対処方法～	-----	11
・ 現場に役立つ!褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	-----	12
・ 災害時の院内対応を学ぼう!	-----	12
・ 慢性腎臓病患者への腎代替療法とケア	-----	13
・ 目からウロコのクスリ問答～薬の最新知識と安全な与薬管理～	-----	13
・ 患者の急変予測と急変対応～患者の様子が“何かおかしい”に気づく～	-----	14
・ お口のケアからやがては生命力の維持・回復へ	-----	14
・ 高齢者の転倒予防を支える看護実践	-----	15
・ 食べるを支える摂食嚥下リハビリテーションの実際	-----	15
・ 地域包括ケア時代の看護職の役割～退院支援への取り組み～	-----	16
・ 呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸②～人工呼吸ケア～	-----	16
・ 看護研究フォローアップ～悩み解決!院内・院外発表に向けて～	-----	17
・ 糖尿病看護に役立つヒント～インシデント事例から学ぶ～	-----	17
・ がん患者の自分らしい生活を支えるために	-----	18
・ 迷っていませんか?看護職としての自身の方向性～まなびサポートブックからのヒント～	-----	18
・ 危機的状況における家族ケア	-----	19
・ 予兆を察知!脳血管障害に必要なアセスメント	-----	19
・ 消化器領域の検査データの見方・活かし方	-----	20

・ペイシェントハラスメントの予防・対応	20
・循環器領域の検査データの見方・活かし方①[心電図編]	21
・事例で学ぶ慢性心不全患者の看護	21
・場面に応じたアドバンス・ケア・プランニング(ACP)	22
・循環器領域の検査データの見方・活かし方②[画像診断編]	22

研修分類 2. 看護・医療政策に関する研修

・VRでせん妄疑似体験！～ほんとうに必要ですか身体拘束～	23
・地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう！	23

研修分類 3. 人材育成や教育支援を行う者を対象とした研修

・看護師に求められる実践力	24
・看護師のキャリア支援～自己の看護人生を描く～	25
・看護師だからできる人材育成	25
・人材育成に活かすコーチングスキル	26
・スタッフ指導における「気になる」を解決!個性を活かす関わりと支援しやすい職場作り	26
・はじめてのリーダー～看護職に求められるリーダーシップ～	27
・知っておこう！組織で進める生涯学習支援～生涯学習ガイドラインの基礎知識～	27
・はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第1回】	28
・はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第2回】	28

研修分類 4. 看護管理者を対象とした研修

・看護マネジメントリフレクション	29
------------------	----

研修分類 5. 資格認定教育

・認定看護管理者教育課程第1回ファーストレベル 第2回ファーストレベル	30
・認定看護管理者教育課程セカンドレベル	32

IV. その他

・一般研修～アンケート結果からみた研修の理解度・満足度・活用度割合～	34
------------------------------------	----

I. 2025 年度 研修実施概要

分類 1 専門職としての活動の基盤となる研修

研修名	開催期間	目 標
感染管理（7日間コース）	6/26 ～8/8	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。
[公開講座] 感染症の基礎知識と感染対策①	6/26	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。
[公開講座] 感染症の基礎知識と感染対策②	7/3	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。
研究計画書を作ってみよう～看護研究の基礎から学ぶ～ (3日間コース)	7/4 ～8/13	看護研究を理解し、研究遂行に必要な基礎的能力を修得する。臨床現場における自らの興味・関心をもとに選択した看護研究論文の精読を通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。
認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	7/10	認知症高齢者を正しく捉えるためのアセスメントの視点を理解する。
看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～	7/18	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録の方法を理解する。
[公開講座] 感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策	7/29	感染に対する最新の動向と、感染予防対策を理解する。
[公開講座] 職業感染防止の実際・侵襲的な器具や処置の感染予防対策	7/30	医療現場で起きる職業感染を防止するための方策を理解する。
地域と病院をつなぐ外来看護 ～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～	8/6	住み慣れた地域での生活を支えるための在宅療養支援と看護職者に求められる役割を理解し、外来に求められる看護の専門性を学ぶ。
呼吸に強くなる!基礎から学ぶ呼吸① ～フィジカルアセスメント～	8/20	呼吸のフィジカルアセスメントを修得する。
医療・看護における倫理～倫理的問題とその対処方法～	8/21	医療・看護における倫理的問題を理解する。事例を通して倫理的問題に対処するための視点と方法を理解する。
現場に役立つ!褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	8/22	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解する。
災害時の院内対応を学ぼう!	8/28	災害医療・災害看護に関する基礎知識を習得し、発災時の院内対応について学ぶ。
慢性腎臓病患者への腎代替療法とケア	9/4	慢性腎臓病の基礎的知識を深め、患者ケアや療育指導について理解する。
目からウロコのクスリ問答～薬の最新知識と安全な与薬管理～	9/12	臨床における薬物療法の看護に必要な最新知識を習得し、安全に確実な与薬管理の実践能力を高めることができる。
患者の急変予測と急変対応 ～患者の様子が“何かおかしい”に気づく～	9/18	急変予測と急変対応に関する基礎的な知識を修得し、急変対応力を高めることができる。
お口のケアからやがては生命力の維持・回復へ	9/26	口腔ケアがもたらす生命力の回復過程を習得する。
高齢者の転倒予防を支える看護実践	10/5	運動機能障害を正しく理解し、転倒予防のための基礎知識を修得する。
食べるを支える摂食嚥下リハビリテーションの実際	10/9	患者のQOL向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解する。
地域包括ケア時代の看護職の役割 ～退院支援への取り組み～	10/10	多職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整、退院支援が行える必要な知識と役割を修得する。
呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸② ～人工呼吸ケア～	10/17	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を修得する。
看護研究フォローアップ ～悩み解決!院内・院外発表に向けて～	10/24	院内・院外等学会発表にむけた論文のまとめ方・発表の技を学ぶ。
糖尿病看護に役立つヒント ～インシデント事例から学ぶ～	11/3	糖尿病および治療に関する最新知識を修得し、生活習慣に合わせた患者ケアや療養指導を理解する。
がん患者の自分らしい生活を支えるために	11/6	がん治療の基本を理解し、治療過程における緩和ケアの方法を学び実践に活かす。
迷っていませんか?看護職としての自身の方向性 ～学びサポートブックからのヒント～	11/7	看護職としてなりたい自分の方向性を考え、自ら進めていく考え方のヒントを得ることができる。
危機的状況における家族ケア	11/13	危機的状況に置かれた患者家族の心理状態と、家族の状況に合わせた具体的な対応を理解する。
予兆を察知!脳血管障害に必要なアセスメント	11/21	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメントを理解する。
消化器領域の検査データの見方・活かし方	11/22	消化器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を習得する。
ペイシェントハラスメントの予防・対応	11/29	医療現場におけるハラスメントの背景・リスク要因を知り、発生後の対応の実際を学ぶ。
循環器領域の検査データの見方・活かし方①[心電図編]	12/3	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。
事例で学ぶ慢性心不全患者の看護	12/10	慢性心不全の基礎的知識を習得し、療養支援の実際を知る。
場面に応じたアドバンス・ケア・プランニング(ACP)	12/12	患者、家族の意思決定を支える看護について理解する。
循環器領域の検査データの見方・活かし方②[画像診断編]	2026年 1/21	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。

分類2 看護・医療政策に関する研修

研修名	開催期間	目 標
医療安全管理者養成 (日本看護協会主催インターネット配信オンデマンド活用)	オンデマンド 35時間 集合研修 11/27	医療の質の向上と安全確保を目的とした、医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。
VR でせん妄疑似体験！～ほんとうに必要ですか身体拘束～	7/19	身体拘束の弊害などを理解し、知識を学ぶことで身体拘束を最小限に抑え、患者の尊厳を守るための実践力を高めることができる。
地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう!	9/3	地域包括ケアシステムの構築・推進に対応するための看護職の役割を理解する。
認知症高齢者の看護実践に必要な知識【第1回】 *「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応	オンデマンド 7時間 集合研修 9/10	1.認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する。 2.入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を理解する。
認知症高齢者の看護実践に必要な知識【第2回】 *「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応	オンデマンド 7時間 集合研修 9/11	1.認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する。 2.入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を理解する。
災害支援ナース養成研修	オンデマンド 20時間 集合研修 10/15・16	1.災害・感染症等に関する基礎知識・技術を習得する。 2.応援派遣の概要を理解し、研修修了者として実際の派遣時に対応できる技能を習得する。
外来における在宅療養支援能力向上のための研修	オンデマンド 200分 集合研修 12/3	1.外来看護を取り巻く現状や国の政策について理解する。 2.所属施設の医療機能や地域の実情等から、地域で切れ目ない在宅療養支援を行う上での、自施設が担うべき役割を理解する。 3.演習によって、在宅療養支援における自身の役割や課題に対する認識を深め、実践力の強化につなげる。

分類3 人材育成や教育支援を行う者を対象とした研修

研修名	開催期間	目 標
看護師に求められる実践力（3日間コース）	7/11 ～7/31	自身のキャリアデザインを描き、看護師に求められる実践力を高めることができる。
[公開講座] 看護師のキャリア支援～自己の看護人生を描く～	7/11	自身のキャリアデザインを描くことができる。
[公開講座] 看護師だからできる人材育成	7/30	新人看護職員・実地指導者・プリセプターの支援ができる。
[公開講座] 人材育成に活かすコーチングスキル	7/31	人材育成に必要なコーチングスキルを学び実践に活かすことができる。
スタッフ指導における「気になる」を解決! 個性を活かす関わりと支援しやすい職場作り	10/4	「気になる」看護師の判断と効果的で具体的な指導方法を理解する。
はじめてのリーダー ～看護職に求められるリーダーシップ～	10/22	リーダーシップを発揮するために必要な基本知識を学び、チームでの役割を理解する。
知っておこう！組織で進める生涯学習支援 ～生涯学習ガイドラインの基礎知識～	10/23	1.看護職の生涯学習に関する現状と課題から、生涯学習の必要性を理解する。 2.個々の看護職への主体的学習、キャリア形成への支援を理解する。 3.組織における生涯学習支援の必要性を理解し、自施設への取り組む方向性について考える。
はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第1回】	12/16・17	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンを明確化する。
はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第2回】	2026年 1/13・14	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンを明確化する。

分類4 看護管理者を対象とした研修

研修名	開催期間	目 標
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2024【第1回】	オンデマンド 3時間 集合研修 7/17 午前	1.看護補助者との協働において看護職と看護補助者の役割と責任が理解できる。 2.効果的・効率的な看護を提供するための実務実施体制の整備の方策が理解できる。 3.看護補助者の確保の方策と労働環境整備の方策が理解できる。 4.看護職及び看護補助者の教育体制の整備の方策が理解できる。
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2024【第2回】	オンデマンド 3時間 集合研修 7/17 午後	
看護マネジメントリフレクション	10/18	マネジメントリフレクションで管理の質向上を目指す。

分類5 資格認定教育

研修名	開催期間	教育目的・到達目標
認定看護管理者教育課程 第1回 ファーストレベル	5/15 ～ 9/20	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。 ・ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。 ・組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。 ・看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。
認定看護管理者教育課程 第2回 ファーストレベル	10/2 ～ 2026年 1/31	
認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	6/26 ～ 12/14	看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。 ・組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。 ・保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。
ファーストレベルフォローアップ① 2024年度第2回看護管理実践報告会	6/15	立案した看護管理実践計画に沿って実践した経過並びにその結果を報告する。
セカンドレベルフォローアップ 2024年度看護管理実践報告会	9/6	
ファーストレベルフォローアップ② 2025年度第1回看護管理実践報告会	2026年 2/14	

共催研修

研修名	開催期間	目 標
AHA BLS プロバイダーコース研修会 (NPO 法人日本 ACLS 協会)第1回 【会場:ながさき看護センター】	7/17	病院内外での緊急事態に対する救命処置、救命のための初期評価を学ぶ。
AHA BLS プロバイダーコース研修会 (NPO 法人日本 ACLS 協会)第2回 【会場:看護キャリア支援センター】	7/18	
AHA ACLS プロバイダーコース研修会 (NPO 法人日本 ACLS 協会) 【会場:ながさき看護センター】	9/27 9/28	病院内での実際の現場を想定した二次救命処置の効果的なチームワークのための知識と技術を学ぶ。

長崎県受託事業による研修

研修名	開催期間	目 標
長崎県 介護施設等の看護実務者研修	10/17 10/18 10/19	介護施設等の現場において、実際に保健医療サービス及び福祉サービスを提供している看護職員を対象に、高齢者が尊厳を維持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援し、権利擁護に必要な援助等を行うために必要な実践的な知識・技術を修得する。
長崎県 看護職員認知症対応力・実践力向上研修	11/8 11/9 11/16	認知症と接する機会が多い看護職員が、入院から退院までのプロセスに沿った必要な基礎知識や、認知症の特徴等に対する実践的な対応力を習得するとともに、同じ医療機関等の看護職員に対し伝達をすることで、医療機関内等での認知症ケアの適切な実施とマネジメント体制の構築を図ることにより、身体合併症等の適切な対応の充実に資する。

Ⅱ. 2025年度 受講者概要

1. 開催期間 2025年4月1日～2026年3月31日

2. 実施研修数 63

3. 分類別研修数(資格認定・共催研修・県受託含む)

	企画数	実施数	定員	応募者数	受講決定者数	参加者数
分類1	37	37	1,790	1,140	1,048	1,022
分類2	8	8	420	404	372	322
分類3	9	9	410	281	272	267
分類4	3	3	160	139	124	123
分類5	6	6	249	239	237	236
計	63	63	3,029	2,203	2,053	1,970

4. 講義形態:

集合	オンライン	オンライン+集合	ハイブリッド	オンデマンド+集合	計
45	4	1	8	5	63

5. 会員の受講決定者状況(支部別) ※個人会員含む ※「医療安全」「共催」「県受託」研修は除く

会員数	一般研修		資格認定教育	
	受講決定者数	%	受講決定者数	%
県南 4,709	745	15.8%	114	2.4%
県央 2,326	631	27.1%	59	2.5%
県北 1,923	244	12.7%	48	2.5%
4離島 375	28	7.5%	14	3.7%
総計 9,333	1,648	17.7%	235	2.5%

6. 会員施設の受講修了状況 ※「医療安全」「共催」「県受託」研修は除く

施設数	受講施設数	%
県南 105	40	38.1%
県央 79	31	39.2%
県北 47	20	42.6%
4離島 25	5	20.0%
総計 256	96	37.5%

7.研修概要一覧

	研修No.	研 修 名	受講状況		
			日数	定員	受講決定者数
一般研修	2501	感染管理 (7日間コース)	7	50	39
	2502	[公開講座] 感染症の基礎知識と感染対策① (感染管理)	0.5	30	16
	2503	医療安全管理者養成(日本看護協会主催インターネット配信オンデマンド活用)	35時間 集合1日	60	42
	2504	[公開講座] 感染症の基礎知識と感染対策② (感染管理)	0.5	30	17
	2505	研究計画書を作ってみよう～看護研究の基礎から学ぶ～ (3日間コース)	3	30	13
	2506	認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	1	60	33
	2507	看護師に求められる実践力 (3日間コース)	3	30	16
	2508	[公開講座] 看護師のキャリア支援～自己の看護人生を描く～ (看護師に求められる実践力)	1	30	12
	2509	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2024【第1回】	3時間 集合0.5日	50	49
	2510	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2024【第2回】	3時間 集合0.5日	50	48
	2511	看護の現場ですぐに役立つ看護記録～伝わる記録のコツと書き方～	1	60	50
	2512	VRでせん妄疑似体験!～ほんとうに必要ですか身体拘束～	1	60	70
	2513	[公開講座] 感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策 (感染管理)	0.5	30	26
	2514	[公開講座] 職業感染防止の実際・侵襲的な器具や処置の感染予防対策 (感染管理)	1	30	9
	2515	[公開講座] 看護師だからできる人材育成 (看護師に求められる実践力)	1	30	28
	2516	[公開講座] 人材育成に活かすコーチングスキル (看護師に求められる実践力)	1	30	34
	2517	地域と病院をつなぐ外来看護～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～	0.5	50	27
	2518	呼吸器に強くなる! 基礎から学ぶ呼吸①～フィジカルアセスメント～	1	60	19
	2519	医療・看護における倫理～倫理的問題とその対処方法～	1	60	37
	2520	現場に役立つ! 褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	1	60	56
	2521	災害時の院内対応を学ぼう!	1	50	71
	2522	地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう!	0.5	60	32
	2523	慢性腎臓病患者への腎代替療法とケア	1	60	19
	2524	認知症高齢者の看護実践に必要な知識【第1回】*「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応	7時間 集合1日	60	60
	2525	認知症高齢者の看護実践に必要な知識【第2回】*「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応	7時間 集合1日	60	60
	2526	目からウロコのクスリ問答～薬の最新知識と安全な薬管理～	0.5	60	47
	2527	患者の急変予測と急変対応～患者の様子が“何かおかしい”に気づく～	1	60	38
	2528	お口のケアからやがては生命力の維持・回復へ	1	60	27
	2529	スタッフ指導における「気になる」を解決!個性を活かす関わりと支援しやすい職場作り	1	60	26
	2530	高齢者の転倒予防を支える看護実践	1	50	16
	2531	食べるを支える摂食嚥下リハビリテーションの実際	1	50	12
	2532	地域包括ケア時代の看護職の役割～退院支援への取り組み～	1	60	36
	2533	災害支援ナース養成研修	20時間 集合2日	30	29
	2534	呼吸器に強くなる! 基礎から学ぶ呼吸②～人工呼吸ケア～	1	60	26
	2535	看護マネジメントリフレクション	1	60	27
	2536	はじめてのリーダー～看護職に求められるリーダーシップ～	1	60	32
	2537	知っておこう! 組織で進める生涯学習支援～生涯学習ガイドラインの基礎知識～	0.5	50	12
	2538	看護研究フォローアップ～悩み解決!院内・院外発表に向けて～	1	30	10
	2539	糖尿病看護に役立つヒント～インシデント事例から学ぶ～	1	50	11
	2540	がん患者の自分らしい生活を支えるために	1	50	27
	2541	迷っていませんか?看護職としての自身の方向性～まなびサポートブックからのヒント～	0.5	40	10
	2542	危機的状況における家族ケア	1	50	18
	2543	予兆を察知!脳血管障害に必要なアセスメント	0.5	60	41
	2544	消化器領域の検査データの見方・活かし方	0.5	60	21
	2545	ペイシェントハラスメントの予防・対応	0.5	60	61
	2546	循環器領域の検査データの見方・活かし方①[心電図編]	0.5	60	51
	2547	事例で学ぶ慢性心不全患者の看護	1	60	24
	2548	場面に応じたアドバンス・ケア・プランニング(ACP)	0.5	60	54
	2549	外来における在宅療養支援能力向上のための研修	200分 集合0.5日	30	13
	2550	はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第1回】	1.5	60	60
	2551	はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第2回】	1.5	60	52
	2552	循環器領域の検査データの見方・活かし方②[画像診断編]	0.5	60	23
認定看護管理者教育課程	2553	認定看護管理者教育課程 第1回ファーストレベル	20	45	37
	2554	認定看護管理者教育課程 第2回ファーストレベル	20	45	45
	2555	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	31	35	31
	2556	ファーストレベル フォローアップ① 2024年度第2回看護管理実践報告会	1	52	49
	2557	セカンドレベル フォローアップ 2024年度看護管理実践報告会	1	37	37
2558	ファーストレベル フォローアップ② 2025年度第1回看護管理実践報告会	1	37	37	
共催研修	2559	AHA BLSプロバイダーコース研修会(NPO法人日本ACLS協会)【第1回】	1	15	15
	2560	AHA BLSプロバイダーコース研修会(NPO法人日本ACLS協会)【第2回】	1	15	9
	2561	AHA ACLSプロバイダーコース研修会(NPO法人日本ACLS協会)	2	10	5
委託事業	2562	長崎県介護施設等の看護実務者研修	3	50	34
	2563	長崎県看護職員認知症対応力・実践力向上研修	3	60	66

研修名	感染管理(7日間コース)		開催日	2025年6月26日～8月8日
講師	研修内容参照		企画	研修センター
目的	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。			
目標	1) 感染管理者の役割と必要な専門的知識が理解できる。 2) 感染管理に必要な感染症の基礎知識が理解できる。			
受講者概要	応募者:39人	受講者:39人	アンケート回答者数:38人	回答率:97.4%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:38人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:2人、6～10年:6人、11～20年:12人、21年以上:18人		

回	日	時	形態	内 容	講 師
1	6/26 ※公開	13:30 ～ 16:00	オン ライン	感染症の基礎知識と感染対策① ・感染症診療の原則	古本 朗嗣 長崎大学病院 感染症医療人育成センター
2	6/27	9:30 ～ 15:30	集合	感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・感染管理とは ・現状と問題点 ・感染対策の考え方 ・感染対策予防において看護師の役割	金澤 美弥子 感染管理認定看護師
3	7/3 ※公開	13:30 ～ 16:00	オン ライン	感染症の基礎知識と感染対策② ・呼吸器ウイルス感染症対策 ・院内クラスター ・耐性菌のアウトブレイクへの対応	古本 朗嗣 長崎大学病院 感染症医療人育成センター
4	7/4	9:30 ～ 15:30	集合	感染予防対策の基本—標準予防策とゾーニング ・手洗いの基本 ・防護具の基準と使用方法 ・消毒、滅菌の基本 ・ゾーニングの考え方の基本や留意点【机上演習】 感染対策の現状と課題① ・演習の進め方	森 英恵 感染管理認定看護師
5	7/29 ※公開	13:30 ～ 16:30	オン ライン	感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策 ・新興ウイルス感染症の最新情報 ・感染予防対策の基本	忽那 賢志 太田 悦子 大阪大学医学部付属病院
6	7/30 ※公開	9:30 ～ 15:30	集合	職業感染防止と経路別予防対策 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策・接触者対策 ・患者環境と感染予防 ・基本ケアと感染予防 侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 ・血流、尿路感染予防対策 ・手術部位感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策	木場 みちよ 感染管理認定看護師
7	8/8	9:30～ 15:30	集合	感染対策の現状と課題② ・自施設(自部署)の現状 ・課題の明確化	金澤・森・木場

評 価	プログラム7日間はオンライン研修3日間、集合研修4日間で実施した。研修内容は最新の情報を取り入れながら、感染症の基礎知識、標準予防策、経路別感染予防対策まで実践的な学びであり、演習では、受講者同士が自施設の現状や課題について情報を共有し、互いに学び合う有意義な時間となった。																			
	アンケート回答者数38名のうち、『理解度』『満足度』『活用度』では、「できた」「おおむねできた」が合わせて9割を超えていた。講義を受けての感想では「クラスター発生時の対応について、ゾーニングについて楽しく学ぶことができました」「今回の演習はとても参考になりました。直接観察法や、シミュレーションを通して5つのタイミングを皆で共有するなど、実際に検討していきたいと思いました」など高い評価を得られたことから、研修の目的は達成できたと判断する。																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>おおむねできる</th> <th>どちらともいえない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>50%</td> <td>47%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>64%</td> <td>35%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>64%</td> <td>34%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>				項目	できる	おおむねできる	どちらともいえない	理解度	50%	47%	3%	満足度	64%	35%	2%	活用度	64%	34%	2%
項目	できる	おおむねできる	どちらともいえない																	
理解度	50%	47%	3%																	
満足度	64%	35%	2%																	
活用度	64%	34%	2%																	

研修名	感染症の基礎知識と感染対策① (感染管理研修公開)		開催日	2025年6月26日
講師	古本朗嗣 (長崎大学病院)		企画	研修センター
目標	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。			
受講者概要	応募者:16人	受講者:16人	アンケート回答者数:16人	回答率:100%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:16人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:0人、3~5年:2人、6~10年:6人、11~20年:3人、21年以上:5人		
研修内容	感染管理7日間コース研修の第1回目の公開研修で、オンラインで実施した。 研修内容は感染症診療の原則として感染症を疑う状況なのか、起炎菌推定から初期治療の治療薬の決定、治療効果の判定など講義形式で行われた。			
評価	<p>アンケート回答者数16名のうち、『理解度』は「できた」「おおむねできた」75.1%、『満足度』『活用度』に関しては「できた」「おおむねできた」が9割を超えていた。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは「発熱時の観察点やどう考察していくのか勉強になりました」「現場で研修内容を伝達し、早期対応に繋げていきたい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」41.9%と最も多く、理解度、満足度、活用度の結果より、本研修の目的は達成できたと評価する。</p>			

研修名	感染症の基礎知識と感染対策② (感染管理研修公開)		開催日	2025年7月3日
講師	古本朗嗣 (長崎大学病院)		企画	研修センター
目標	感染症の基礎知識と感染対策を理解する。			
受講者概要	応募者:17人	受講者:16人	アンケート回答者数:16人	回答率:100%
	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:15人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:1人、3~5年:3人、6~10年:5人、11~20年:3人、21年以上:4人		
研修内容	感染管理7日間コース研修の第3回目の公開研修で、オンラインで実施した。 研修内容は、呼吸器ウイルス感染症対策とアウトブレイクへの対応について講義形式で行われた。			
評価	<p>アンケート回答者16名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』『活用度』全てで9割を超えていた。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「院内のアウトブレイクの対応について、日頃から問題意識を持ちアウトブレイクの予兆に気づける視点をもつことを現場でも伝えていきたいと思います」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」が62.5%と最も多く、続いて「自己のニーズが満たされた」「アイデアが得られた」であった。理解度、満足度、活用度、感想などの結果より研修の目標は達成できたと判断する。</p>			

研修名	研究計画書を作ってみよう ～看護研究の基礎から学ぶ～	開催日	2025年7月4日 2025年7月25日 2025年8月13日												
講師 演習支援	大重 育美(長崎県立大学) 三重野愛子(長崎県立大学)	企画	教育委員会												
目標	看護研究を理解し、研究遂行に必要な基礎的能力を修得する。臨床現場における自らの興味・関心をもとに選択した看護研究論文の精読を通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。														
受講者 概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:13人</td> <td>受講者:13人</td> <td>アンケート回答者数:12人</td> <td>回答率:92.3%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:12人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:2人、3～5年:1人、6～10年:2人、11～20年:4人、21年以上:3人</td> </tr> </table>			応募者:13人	受講者:13人	アンケート回答者数:12人	回答率:92.3%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:12人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:2人、3～5年:1人、6～10年:2人、11～20年:4人、21年以上:3人		
応募者:13人	受講者:13人	アンケート回答者数:12人	回答率:92.3%												
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:12人、准看護師:0人、その他0人														
臨床経験年数	3年未満:2人、3～5年:1人、6～10年:2人、11～20年:4人、21年以上:3人														
研修 内容	研修内容は、7/4研究計画書の基礎的知識、7/25文献検索と先行研究分析の実際、8/13研究計画書の実際についてなどが講義形式で行われ、各自の研究課題については、グループワークや個別面談が行われた。														
評価	<p>アンケート回答12名のうち、7/4看護研究の基礎的知識の講義の『理解度』『満足度』『活用度』について、「できた・おおむねできた」は、『理解度』80%以上、『満足度』『活用度』90%以上だった。7/25文献検索と先行研究分析の実際(演習)と8/13研究計画書の実際(演習)の講義では、『理解度』『満足度』『活用度』の「できた・おおむねできた」の回答者は3項目とも90%以上だった。</p> <p>第1回看護研究の基礎的知識の講義の感想では、「漠然としていた部分が明確になり、研究計画書を書くうえで、とても参考になる内容だった」という意見だった。第2回文献検索と先行研究分析の実際の講義の感想では、「個別指導の時間を設けて頂き、自身の研究内容についての疑問や不安を解消することができた」という意見だった。第3回研究計画書の実際の感想では、「研究に関して苦手意識がありましたが、今回の研修を通して、もっと勉強したいと思うようになりました」「基礎から計画書の作成、発表に至るまで、一連の流れを実践的に学ぶことができ、とても充実した時間でした」など、自身の研究の道筋ができてきたという前向きな意見が多かった。アンケート結果において高評価が示されていることから、研修の目的は達成できたと判断する。</p>														

研修名	認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	開催日	2025年7月10日												
講師	飯山有紀(熊本保健科学大学キャリア教育研修センター)	企画	教育委員会												
目標	認知症高齢者を正しく捉えるためのアセスメントの視点を理解する。														
受講者 概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:33人</td> <td>受講者:33人</td> <td>アンケート回答者数:27人</td> <td>回答率:81.8%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:1人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:8人、3～5年:3人、6～10年:7人、11～20年:5人、21年以上:4人</td> </tr> </table>			応募者:33人	受講者:33人	アンケート回答者数:27人	回答率:81.8%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:1人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:8人、3～5年:3人、6～10年:7人、11～20年:5人、21年以上:4人		
応募者:33人	受講者:33人	アンケート回答者数:27人	回答率:81.8%												
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:1人、その他0人														
臨床経験年数	3年未満:8人、3～5年:3人、6～10年:7人、11～20年:5人、21年以上:4人														
研修 内容	研修はオンラインで行われた。研修内容は、高齢者の理解、認知症とは暮らしの障害である、認知症とは脳の病気である、認知症の人が抱える痛みを予測し予防する(認知機能障害とBPSD)、認知症への深い理解、認知症と薬剤の知識、認知症高齢者に対する倫理的配慮と意思決定支援であった。														
評価	<p>アンケート回答者数27名のうち、『理解度』『満足度』の回答者は「できた・おおむねできた」100%、『活用度』の「できた・おおむねできた」は96.3%であった。</p> <p>今後実践したいことについては「認知症患者さんが多い病棟で勤務しているので、患者さんの一つ一つの言葉や行動をしっかりと観察し、今の患者さんの状態に適した看護を実践していきたい」「評価やアセスメントの方法、考え方が分かりやすかった。今後のケアの中ですぐに活用できることばかりでどれも参考になった。スタッフにも共有していきたいと思う」などの記載があった。本研修の感想や意見では、「認知症の患者様の観察を行いアセスメント、ケアを行って行きたいと思います。認知症ケアの新たな関わり方も学ぶことが出来たので良かったです」との感想の記載があり、受講者の満足度は高かったのが伺えたため、本研修の目標は達成できたと判断する。</p>														

研修名	看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～		開催日	2025年7月18日
講師	中島美津子（東京医療保健大学）		企画	教育委員会
目標	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録の方法を理解する。			
受講者概要	応募者:50人	受講者:47人	アンケート回答者数:26人	回答率:55.3%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:25人、准看護師:1人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:3人、3～5年:0人、6～10年:6人、11～20年:10人、21年以上:7人		
研修内容	研修は、集合研修で実施、講義・演習形式で行われた。講義内容は、看護記録の理解、看護記録の電子化、看護記録と外部環境の変化、記録監査対応、「看護」記録にするにはの講義であった。			
評価	<p>アンケート回答26名のうち、『理解度』の「できた・おおむねできた」の回答者は84.6%、『満足度』の「できた・おおむねできた」は92.3%であった。今後実践できること、実践したいことでは、「記録、計画を立案する際に、ウェルビーイングを考えることや、不要な記録をしないなど、もう一度自分の記録を考え直そうと思った」「無駄な記録をなくしていくこと、責任を持って記録に残していくことを改めて大事だなと思った」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識が整理できた」が最も多く22%であった。本研修の感想・意見では、「楽しかったです！また講義を受けたいと思いました」「大変、学びが大きい講義でした」などの好意的な意見が多く受講者の満足度は高かったのが伺える。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目的は達成できたと判断する。研修運営上の問題として、研修了後会場にてアンケート協力と呼び掛けたが回答率55.3%と低かった。今後はさらに協力と呼び掛ける必要がある。</p>			

研修名	感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策 (感染管理研修公開)		開催日	2025年7月29日
講師	忽那賢志（大阪大学大学院） 太田悦子（大阪大学医学部付属病院）		企画	研修センター
目標	感染に対する最新の動向と感染予防対策を理解する。			
受講者概要	応募者:26人	受講者:25人	アンケート回答者数:20人	回答率:80%
	職種	保健師:0人、助産師:2人、看護師:18人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:1人、3～5年:1人、6～10年:5人、11～20年:3人、21年以上:10人		
研修内容	感染管理7日間コース研修の第5回目の公開研修で、オンラインで実施し、講義形式で行われた。研修内容は新興再興感染症とCOVID-19のこれまでとこれから、感染予防対策の基本、標準予防策、経路別感染対策、多剤耐性菌対策、医療関連感染サーベイランスによる防止技術の改善などであった。			
評価	<p>アンケート回答者数20名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』『活用度』全てで9割を超えていた。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「基本的な感染対策の徹底を再度スタッフへ周知していきたいです」「自施設の感染対策を再度確認し、疑問や改良すべき点があれば、他スタッフと話をしたい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識の整理ができた」が46.2%と最も多く、続いて「充実感が得られた」15.4%であった。</p> <p>本研修の感想や意見では、「過去の振り返りと現在の状況、傾向、具体的な対策を学ぶことができ、大変刺激になった」「知識の再確認と最新の動向を知ることができ、とても充実した時間でした」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。</p>			

研修名	職業感染防止の実際・侵襲的な器具や処置の感染予防対策(感染管理研修公開)		開催日	2025年7月30日												
講師	木場みちよ(長崎医療センター)		企画	教育委員会												
目標	医療現場で起きる職業感染を防止するための方策を理解する。															
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:9人</td> <td>受講者:9人</td> <td>アンケート回答者数:6人</td> <td>回答率:66.7%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:6人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:0人、3~5年:1人、6~10年:0人、11~20年:1人、21年以上:4人</td> </tr> </table>				応募者:9人	受講者:9人	アンケート回答者数:6人	回答率:66.7%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:6人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:0人、3~5年:1人、6~10年:0人、11~20年:1人、21年以上:4人		
応募者:9人	受講者:9人	アンケート回答者数:6人	回答率:66.7%													
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:6人、准看護師:0人、その他0人															
臨床経験年数	3年未満:0人、3~5年:1人、6~10年:0人、11~20年:1人、21年以上:4人															
研修内容	感染管理7日間コース研修の第6回目の公開研修で、講義形式で行われた。研修内容は職業感染防止の背景、針刺し防止対策、接触者対策、患者環境と感染予防、基本ケアと感染予防、血流感染予防対策、尿路感染予防対策、人工呼吸器関連肺炎予防対策、手術部位感染予防対策についてであった。															
評価	<p>アンケート回答者6名のうち「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』で100%だった。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「現在の手順や管理法を再度見直してできるところから改善していきたいと思いました」「感染経路に応じて必要な防護具を選択し関わっていききたいと思います」などの記載があった。</p> <p>研修の感想・意見では「実践に基づいた講義だったので、自分の行動を確認しながら受けました。知らなかったこともあったので、実践でやってみようと思います」との感想があった。</p> <p>理解度、満足度、活用度、感想などの結果より研修の目標は達成できたと判断する。</p>															

研修名	地域と病院をつなぐ外来看護 ～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～		開催日	2025年8月6日																
講師	塩田美佐代(医療法人真養会)		企画	教育委員会																
目標	住み慣れた地域での生活を支えるための在宅療養支援と看護職者に求められる役割を理解し、外来に求められる看護の専門性を学ぶ。																			
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:27人</td> <td>受講者:27人</td> <td>㊶対面:9名</td> <td>㊷Zoomによるオンライン:18名</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">アンケート回答者数:27人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:2人、看護師:25人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:1人、3~5年:0人、6~10年:6人、11~20年:11人、21年以上:9人</td> </tr> </table>				応募者:27人	受講者:27人	㊶対面:9名	㊷Zoomによるオンライン:18名		アンケート回答者数:27人		回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:2人、看護師:25人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:1人、3~5年:0人、6~10年:6人、11~20年:11人、21年以上:9人		
応募者:27人	受講者:27人	㊶対面:9名	㊷Zoomによるオンライン:18名																	
	アンケート回答者数:27人		回答率:100%																	
職種	保健師:0人、助産師:2人、看護師:25人、准看護師:0人、その他0人																			
臨床経験年数	3年未満:1人、3~5年:0人、6~10年:6人、11~20年:11人、21年以上:9人																			
研修内容	研修内容は、2040年を見据えた外来を取り巻く医療情勢、外来看護師に求められる役割と必要なスキル、外来看護の課題と体制整備についての講義であった。																			
評価	<p>アンケート回答者27名のうち、講義内容の『理解度』『満足度』の「できた・おおむねできた」の回答者は100%、『活用度』では74%であった。今後の実践への活用では、「スクリーニングシートの作成と活用」「ラウンドナースの体制整備」と記載があった。</p> <p>研修全体の学び・感想には、「外来看護における役割が明確になり、今から取り組んでいかなければいけないことが分かった。また、これからどう取り組んでいけばよいのか考えさせられた」「支援の取り組みなどのアイデアを得られ、とても参考になりました」など好意的な意見が多かった。研修の目標は達成できたと判断する。</p> <p>研修運営上の指摘として、集合受講者1名より、集合受講者への配布資料が白黒であったが、講師はカラー印刷と認識されており、教育委員による講師への訂正がなく研修内容がわかりにくかったという意見があった。</p>																			

研修名	呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸① ～フィジカルアセスメント～		開催日	2025年8月20日
講師	尾野敏明 (東海大学看護師キャリア支援センター)		企画	教育委員会
目標	呼吸のフィジカルアセスメントを修得する。			
受講者概要	応募者:19人	受講者: 19人	アンケート回答者数:17人	回答率:89.5%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:17人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:4人、3～5年:3人、6～10年:5人、11～20年:1人、21年以上:4人		
研修内容	研修は講義形式で、オンラインにて実施された。 講義内容は呼吸の生理や循環器の解剖に加え、視診・触診・打診・聴診の方法を用いて正しい観察法と評価方法について学ぶ内容だった。			
評価	<p>アンケート回答17名のうち、『理解度』『満足度』『活用度』全てで「できた・おおむねできた」の回答者は100%であった。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実施したいことでは、「呼吸状態の観察や心電図の観察」「基本的な観察による異常の早期発見」「呼吸数を測定することの重要性」の記載があり、患者のアセスメントに活かせる内容であったことが伺える。</p> <p>本研修を通して得られた学びでは、「知識の整理ができた」が最も多く36.4%であった。本研修の感想・意見では、複数の参加者が「わかりやすい内容だった」と回答しており、また「実際に聴診器の当て方や異常音の聴取に時間をかけてほしい」といった意見もあった。理解度・満足度ともに高く、研修の学び・感想から研修の目的は達成されたと判断できる。</p>			

研修名	医療・看護における倫理 ～倫理的問題とその対処方法～		開催日	2025年8月21日
講師	中尾久子 (九州大学)		企画	教育委員会
目標	医療・看護における倫理的問題を理解する。事例を通して倫理的問題に対処するための視点と方法を理解する。			
受講者概要	応募者:37人	受講者:35人	アンケート回答者数:33人	回答率:94.3%
	職種	保健師:0人、助産師:2人、看護師:31人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:5人、3～5年:5人、6～10年:3人、11～20年:8人、21年以上:12人		
研修内容	研修内容は、看護における倫理的問題、医療者の行為と倫理的責任、倫理的問題の発生予防と解決方法、事例検証であった。			
評価	<p>アンケート回答者数33名のうち、『理解度』『満足度』では、ともに「できた・おおむねできた」と93.9%が回答した。また『活用度』は「できた・おおむねできた」と90.9%が回答した。今後実践したいことについて、「今日の学びをもとに4分割法でカンファレンスをしていきたい」や「倫理的問題が生じていないか気づけるように注力したい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識が整理できた」が最も多く38.6%であった。感想では、「事例を通して日頃の看護業務で起こり得ることを考え得ることができた」「とても勉強になりました」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。</p>			

研修名	現場に役立つ！褥瘡ケア ～基本知識に基づいたケアの実際～		開催日	2025年8月22日
講師	上戸竜一（諫早総合病院）		企画	教育委員会
目標	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解する。			
受講者概要	応募者:56人	受講者:55人	アンケート回答者数:50人	回答率:90.9%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:47人、准看護師:3人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:3人、3～5年:5人、6～10年:8人、11～20年:16人、21年以上:18人		
研修内容	研修内容は、褥瘡の現状とメカニズム、褥瘡予防・治療・ケアの全体像、褥瘡発生前の褥瘡予防、褥瘡発生後の褥の管理についての講義であった。			
評価	<p>アンケート回答者50名のうち、講義の『理解度』『満足度』『活用度』の「できた・おおむねできた」の回答者は、3項目とも90%以上であった。今後実践への活用では、「瘡が発生した要因をアセスメントし原因を改善できるように取り組むこと」「褥瘡予防についての知識を院内全体で周知していきたい」とあった。</p> <p>研修全体の学び・感想には、「講義は分かりやすかった。参加し良かったと思う」「入院してくる患者さんですでに褥瘡のある方や以前あった患者さんが多いので、今回の研修で学んだことを活かせたらと思う。またNSTチームの一員であるため、褥瘡のある患者さんには積極的に栄養管理を行なっていきたいと思った」など、即時に実践に活用するといった意見が多かった。『理解度』『満足度』『活用度』が高く、記述内容も高評価で、研修の目標は達成できたと判断する。</p>			

研修名	災害時の院内対応を学ぼう！		開催日	2025年8月28日
講師	金子龍太郎（島原病院）		企画	教育委員会
目標	災害医療・災害看護に関する基礎知識を習得し、発災時の院内対応について学ぶ。			
受講者概要	応募者:71人	受講者:70人	アンケート回答者数:63人	回答率:90%
	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:62人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:1人、3～5年:5人、6～10年:9人、11～20年:12人、21年以上:36人		
研修内容	研修内容は、災害座学（災害とは、過去の災害と対応、災害サイクル）、災害拠点病院とはEMISとは、災害時のCSCATTTについて講義・演習を行った。			
評価	<p>アンケート回答者数63名のうち、『理解度』では「できた・おおむねできた」が100%、『満足度』では「できた・おおむねできた」が96.8%であった。『活用度』では「できた・おおむねできた」が90.5%であった。</p> <p>今後実践したいことについては、「自施設での対応ができるように災害対策を行ってほしい」「CSCATTTいざという時に行動できるよう、他スタッフと共有したいと思います」「BCP作成にあたり参考になる研修でした」等の記載があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識の整理が出来た」が34.2%と最も多く、本研修の感想、意見でも「様々な実践体験ができ、他施設の看護師と意見交換ができて、とても充実した研修でした。」「他病院スタッフと意見交換、実際にディスカッションしながら行うことが出来て有意義だった」という高評価の意見が多くあった。一方「グループワークにおいては、それぞれ機能が異なる施設で働いているので、ファシリテーターの方が事前情報として把握しておられるのであれば、進行役として各グループにいた方がさらに自施設の災害時の対応がイメージしやすいのではないかと思います」との意見もあり今後の研修の進め方については検討が必要だと感じた。理解度、満足度、活用度、研修の感想から受講者の満足度は高かったのが伺え、研修の目標は達成できたと判断する。</p>			

研修名	慢性腎臓病患者への腎代替療法とケア		開催日	2025年9月4日
講師	中野国枝（長崎大学病院）		企画	教育委員会
目標	慢性腎臓病の基礎的知識を深め、患者ケアや療養指導について理解する			
受講者概要	応募者:19人	受講者:16人	アンケート回答者数:15人	回答率:93.8%
	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:14人、准看護師:0人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:1人、3~5年:3人、6~10年:4人、11~20年:2人、21年以上:5人		
研修内容	研修内容は、腎臓のメカニズム、慢性腎臓病の病態、療養生活支援、代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）、治療選択する際意思決定支援に関する看護師の役割、高齢者の腎代替療法における看護師の役割についての講義・グループワークと腹膜透析機器の演習だった。			
評価	<p>アンケート回答15名のうち、講義の『理解度』『満足度』の「できた・おおむねできた」100%、『活用度』は86.7%だった。本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」86.7%だった。</p> <p>研修の学び・感想には、「知識を再確認することができて良かった。PDの機械に触れられたことも学びになった」「グループワークで様々な施設の方と意見交換ができて良い学びを得られた」と高評価の意見が多かった。アンケート結果や受講者の反応から、研修の目標は達成されたと判断する。</p>			

研修名	目からウロコのクスリ問答 ～薬の最新知識と安全な与薬管理～		開催日	2025年9月12日
講師	荒井有美(北里大学病院)		企画	教育委員会
目標	臨床における薬物療法の看護に必要な最新知識を習得し、安全に確実な与薬管理の実践能力を高めることができる。			
受講者概要	応募者:47人	受講者:46人	①対面:17名	②Zoomによるオンライン:29名
		アンケート回答者数:38人		回答率:82.6%
	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:32人、准看護師:5人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:2人、3~5年:4人、6~10年:7人、11~20年:10人、21年以上:15人		
研修内容	研修はハイブリッドによる講義形式で行われた。研修内容は、薬物療法における看護師の役割を理解し、安全な薬物管理と与薬時のリスク防止に関する知識を深めるものであった。			
評価	<p>アンケート回答者38名のうち、『理解度』では「できた・おおむねできた」は100%、『満足度』では「満足・おおむね満足」は89.4%であった。「今後実践に活かせる」と回答したのは81.3%と高く、研修目的は概ね達成されたと考えられる。</p> <p>自由記載では、「薬を扱う際のリスク意識を改めて持つことができた」「薬の添付文書を確認する習慣を見直すきっかけになった」「新人教育にも活かしたい」などの意見が多くみられた。また、「薬剤師の視点での説明がわかりやすく、実際の場面での注意点が理解できた」との声もあった。ハイブリッド形式での開催により、勤務形態に合わせて参加できた点は好評であったが、1名「オンラインで音声途切れる箇所があった」との指摘があった。</p> <p>理解度・満足度ともに高く、研修の目標は達成されたと判断する。</p>			

研修名	患者の急変予測と急変対応 ～患者の様子が何かおかしいに気づく～	開催日	2025年9月18日	
講師	本田智治・江川徹（長崎大学病院）	企画	教育委員会	
目標	急変予測と急変対応に関する基礎的な知識を習得し、急変対応力を高めることができる。			
受講者概要	応募者:38人	受講者: 36人	アンケート回答者数: 36人	
	職種	保健師: 1人、助産師: 0人、看護師:34人、准看護師:1人、その他0人		
	臨床経験年数	3年未満:14人、3～5年:7人、6～10年:5人、11～20年:5人、21年以上:5人		
研修内容	研修は集合研修で行われた。研修内容は、急変予測に関する基礎知識、急変時の対応・アプローチ方法、様々な症例に対する急変予測及び急変対応、急変時の医師や他の医療者への報告・応援要請方法(演習)についての講義であった。			
評価	<p>アンケート回答者数36名のうち、『理解度』『満足度』『活用度』では「できた・おおむねできた」全てで100%であった。</p> <p>今後実践したいことについては「急変時にSBARを使用して報告できると思います」「まず、患者の状態観察をしっかりと行い、いつもと違いがないかなどアセスメントしていきたい」などの記載があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは「知識の整理ができた」が37.2%と最も多く、本研修の感想や意見でも、「事例が多く、様々な対応方法を学べた」「わかりやすい講義でした。考えられる疾患の予測を立ててから観察項目をアプローチすることを今後活かしていきたいです」などの感想の記載があり、受講者の満足度は高かったのが伺える。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成できたと判断する。</p>			

研修名	お口のケアからやがては生命力の維持・回復へ	開催日	2025年9月26日	
講師	亀井紗織（株式会社ナースエナジー） 下濱佐都美（長崎県歯科衛生士会諫早支部）	企画	教育委員会	
目標	口腔ケアがもたらす生命力の回復過程を習得する。			
受講者概要	応募者:27人	受講者:25人	アンケート回答者数: 22人	
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:21人、准看護師:1人、その他: 0人		
	臨床経験年数	3年未満:2人、3～5年:2人、6～10年:4人、11～20年:5人、21年以上:9人		
研修内容	研修は、集合研修で実施、講義・演習形式で行われた。講義内容は、在宅看護奮闘記、口腔環境、口腔ケアの効果と意義、うがいでわかる口腔機能、口腔ケアの実践だった。			
評価	<p>アンケート回答22名のうち、『理解度』『満足度』の「できた・おおむねできた」の解答者は100%であった。</p> <p>講義を受けて今後実践できること、実践したいこととして、「今回の研修で効果的な口腔ケアの方法を知ることができた。実践に活かしていきたい」「ケアをする際に実践し、スタッフ指導に役立てます」「在宅では口腔環境が整っていない方も多いため、少しでも乾燥を取り、丁寧適切なケアを心がけていきたい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識が整理できた」が39.6%で最も多かった。</p> <p>本研修の感想・意見では、「口腔ケアの大切さを学ぶことができた」「研修テーマに興味があり、他職種連携をしてもなかなか他職種と関わる機会が少ないので、対応方法を確認でき、自分がどうしたら良いかアイデアが得られた」「普段の口腔ケアではあまり意識できなかったところを学ぶことができて大変参考になりました」などの好意的な意見が多く受講者の満足度は高かったのが伺えるため、本研修の目的は達成できたと判断する。</p>			

研修名	高齢者の転倒予防を支える看護実践	開催日	2025年10月5日	
講師	富田伸次郎（愛野記念病院）	企画	教育委員会	
目標	運動機能障害を正しく理解し、転倒予防のための基礎知識を習得する。			
受講者概要	応募者:16人	受講者:15人	アンケート回答者数:13人	
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:12人、准看護師:0人、その他:1人		
	臨床経験年数	3年未満:3人、3~5年:0人、6~10年:1人、11~20年:2人、21年以上:7人		
研修内容	研修内容は、運動器の機能・解剖と鎮静の知識、骨粗鬆症と骨折の知識、変形性関節症の治療と予防、ロコモティブシンドロームの知識、院内転倒とロコモ、演習（転倒患者シミュレーション）であった。			
評価	<p>アンケート回答者数13名のうち、『理解度』『満足度』では、ともに「できた・おおむねできた」と100%が回答した。また『活用度』は「できた・おおむねできた」と100%が回答した。今後実践したいことについて、「骨粗鬆症について治療薬など、わからないことが多かったため、勉強していきたい」や「認知症患者も多く入院しており、転倒転落も少なくないため、実際に関わった際は学んだ診察方法を実践していきたい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識が整理できた」が37.5%と最も多かった。感想では、「わかりやすく、実技やクイズなどあり、楽しい研修でした」「すごく楽しめながら学べた研修でした。来年も開催されるのであれば、ほかのスタッフにも勧めたいです」「転倒後の対応も実技がありわかりやすく学ぶことができました」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。</p>			

研修名	食べるを支える摂食嚥下リハビリテーションの実際	開催日	2025年10月9日	
講師	松本恵美（井上病院）	企画	教育委員会	
目標	患者のQOL向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解する。			
受講者概要	応募者:12人	受講者:12人	アンケート回答者数:10人	
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:9人、准看護師:1人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:1人、3~5年:0人、6~10年:3人、11~20年:2人、21年以上:4人		
研修内容	研修は、集合研修で実施、講義・演習形式で行われた。講義内容は、摂食嚥下のメカニズムと機能評価、摂食嚥下リハビリテーションの実際、加齢に伴う変化、口腔内評価、口腔ケア、食環境とポディニング、摂食嚥下訓練の方法（演習）、嚥下障害の倫理であった。			
評価	<p>アンケート回答者10名のうち、『理解度』『満足度』の「できた・おおむねできた」の解答者は100%であった。</p> <p>今後実践できること、実践したいことでは、「食事介助時のポジショニングや食事摂取が難しい患者さんの食事介助の方法など、今後活かしていきたい」「認知症の方の食事援助について摂食・嚥下の倫理についてとても参考になる内容で活かしていきたい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識が整理できた」が最も多く33.3%であった。本研修の感想・意見では、「基本的なところから、実際の看護に活かせることを教えていただきよかった」「わかりやすい現場に添った内容で実践に活かせる内容と講義でよかった」などの高評価の感想が多く受講者の満足度は高かったのが伺える。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目的は達成できたと判断する。</p>			

研修名	地域包括ケア時代の看護職の役割 ～退院支援への取り組み～		開催日	2025年10月10日
講師	土井晴代（福岡東医療センター）		企画	教育委員会
目標	地域包括ケアの視点から、病院・在宅・地域との連携を意識した退院支援の実践的知識を学び、看護職としての役割を理解する。			
受講者概要	応募者:36人	受講者:36人	アンケート回答者数:31人	回答率:86.1%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:30人、准看護師:1人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:2人、3～5年:3人、6～10年:2人、11～20年:13人、21年以上:11人		
研修内容	研修は講義形式で行われ、地域包括ケアシステムにおける病院看護師の役割、退院支援の実際、多職種との連携の重要性について事例を交えながら解説があった。退院支援を円滑に進めるためには、入院時からの早期介入や、患者・家族の意向を尊重した支援が重要であることが強調された。また、地域と病院をつなぐための体制づくりやACP（人生会議）の実践など、具体的な実践的な助言も多く、参加者の理解を深める内容であった。			
評価	アンケート回答者31名のうち、『理解度』では「できた・おおむねできた」が96.8%、『満足度』では「できた・おおむねできた」が96.7%、『活用度』では「できた・おおむねできた」が96.8%であった。自由記載では、「地域と病院をつなぐ仕組みを考えるきっかけになった」「退院支援で感じていた課題が共有できた」「ACPで患者・家族の意向を確認していきたい」などの意見があった。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。			

研修名	呼吸器に強くなる！基礎から学ぶ呼吸② ～人工呼吸ケア～		開催日	2025年10月17日
講師	尾野敏明（東海大学看護師キャリア支援センター）		企画	教育委員会
目標	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を修得する。			
受講者概要	応募者:26人	受講者:26人	アンケート回答者数:26人	回答率:100%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:3人、3～5年:9人、6～10年:10人、11～20年:1人、21年以上:3人		
研修内容	講義形式で行われ、呼吸生理や人工呼吸器の基本的知識、リスク管理、アラーム対応や緊急時の対処法、人工呼吸器装着中の患者ケア（吸引・離床・栄養管理・精神的ケア・ウィーニングへの援助）など、臨床で必要な知識を体系的に学ぶ内容であった。講師は根拠に基づいた説明を丁寧に行い、血液ガスの見方や換気モードの違いを症例に沿って解説し、受講者の理解を深めた。			
評価	アンケート回答者26名のうち、『理解度』では「できた・おおむねできた」が100%、『満足度』では「できた・おおむねできた」が96.1%、『活用度』では「できた・おおむねできた」が92.3%であった。自由記載では、「血ガスの見方を病棟でも実践したい」「呼吸器装着患者の観察に活かしたい」「体位ドレナージを取り入れたい」「講義がわかりやすかった」などの意見があった。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。			

研修名	看護研究フォローアップ ～悩み解決！院内・院外発表に向けて～		開催日	2025年10月24日
講師	大重育美（長崎県立大学）		企画	教育委員会
目標	院内・院外等学会発表にむけた論文のまとめ方・発表の技を学ぶ。			
受講者概要	応募者:10人	受講者:9人	アンケート回答者数:9人	回答率:100%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:9人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:2人、3～5年:0人、6～10年:2人、11～20年:4人、21年以上:1人		
研修内容	研修内容は、論文の構成、抄録の書き方、発表に向けたプレゼンテーションの方法など対面形式で実施された。また、受講者の取り組んでいる看護研究の段階に合わせた個人指導も行われた。			
評価	<p>アンケート回答者9名のうち、講義内容の『理解度』『満足度』『活用度』の「できた・おおむねできた」の回答者は100%であった。</p> <p>今後実践できることや実践したいこととして、「発表に向けてより具体的なポイントが見つかり、悩んでいたポイントも解決出来たので参加できてよかった」「学んだことを活かして、今実施している看護研究を完成させ、発表まで終えたい」という意見があった。研修の感想として「先生の講義はとても楽しくわかりやすい内容なので、周りにもおすすめしています。具体的に質問出来る時間を設けて頂き、とても近い距離感で学ぶことができました」「講義内容が分かりやすく、参加型で個別にアドバイスを頂いたので、とても勉強になりました」など肯定的な意見が多かった。受講者のほとんどが、看護研究に取り組んでいる最中であり、講義途中で、個人の進捗状況に合わせて、個別に指導を行うなど、受講者の到達度に合わせた研修ができた。その結果、理解度や満足度の高評価、研修目標の達成につながったと判断する。</p>			

研修名	糖尿病看護に役立つヒント ～インシデント事例から学ぶ～		開催日	2025年11月3日
講師	明島淳也(あけしま内科糖尿病クリニック) 平野晃彦(糖尿病看護認定看護師)		企画	教育委員会
目標	糖尿病および治療に関する最新知識を習得し、生活習慣に合わせた患者ケアや療養指導を理解する。			
受講者概要	応募者:11人	受講者:11人	アンケート回答者数:11人	回答率:100%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:11人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:1人、3～5年:2人、6～10年:0人、11～20年:4人、21年以上:4人		
研修内容	研修内容は、糖尿病の病態、合併症の理解と予防、最新の治療方法と重症化予防に対する取り組み、インスリンのインシデント事例の実際、セルフケア支援、演習であった。			
評価	<p>アンケート回答者数11名のうち、『理解度』『満足度』『活用度』では、すべて「できた・おおむねできた」と100%が回答した。今後実践したいことについて、「インスリンと血糖値の関係を理解でき、とても役に立ちました」や「インスリンの量など、看護師が決めるわけにはいきませんが、Drが何を見て指示を出しているのかを一緒に考える事ができる、なるほどと思う所が出てくると思い楽しみです」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「知識が整理できた」と最も多くが回答した。感想では、「インシデント事例から学ぶ、との研修で、糖尿病看護に役立つヒントが沢山見出だせました。とても分かりやすく継続しての研修を希望します」「今まで不明確にしていた知識の部分が明確になり良かったです」など高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、活用度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。</p>			

研修名	がん患者の自分らしい生活を支えるために	開催日	2025年11月6日
講師	徳永陽子（諫早総合病院） 鎌田茜（諫早総合病院）	企画	教育委員会
目標	がん治療の基本を理解し、治療過程における緩和ケアの方法を学び実践に生かす。		
受講者概要	応募者:27人	受講者:26人	アンケート回答者数:26人 回答率:100%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:0人、その他:0人	
	臨床経験年数	3年未満:1人、3~5年:1人、6~10年:9人、11~20年:10人、21年以上:5人	
研修内容	研修内容は、がん化学療法の基本、がん性疼痛への対応、患者・家族へのセルフケア支援について講義があり、ケースレポートについてグループワークが行われた。		
評価	アンケート回答者26名のうち、『理解度』『満足度』『活用度』ともに、「できた・おおむねできた」が96.2%、「どちらともいえない」が3.8%であった。『活用度』では、「しっかりケモについて、薬の勉強をしようと思った」「緩和の患者に活かすことと委員会メンバーと復習したい」との記載があった。本研修を通しての学びでは、「知識の理解ができた」が最も多く、次いで「アイデアが得られた」であった。感想では、「化学療法についての知識が深まりました。ありがとうございました」「がん患者に対するの対応を含め、薬物についての知識や治療について学ぶべき事項を再確認できました。現時点では業務に精一杯ですが、個々の患者さんに寄り添い臨床看護に活かしていきたい」とあり、本研修の目的は達成できたと判断する。		

研修名	迷っていませんか？看護職としての自身の方向性～まなびサポートブックからのヒント～	開催日	2025年11月7日
講師	糟谷操子（長崎市医師会看護専門学校）	企画	研修センター
目標	看護職としてなりたい自分の方向性を考え、自ら進めていく考え方のヒントを得ることができる。		
受講者概要	応募者:10人	受講者:10人	アンケート回答者数:10人 回答率:100%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:10人、准看護師:0人、その他:0人	
	臨床経験年数	3年未満:6人、3~5年:2人、6~10年:1人、11~20年:0人、21年以上:1人	
研修内容	研修は、看護師のまなびサポートブックと日本看護協会作成のコンテンツを活用した講義形式で行われた。研修内容は、今の自分となりたい自分、きりりナース体験談、自身の成長とキャリアを描く(演習)であった。		
評価	アンケート回答者10名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』『活用度』全て100%だった。 本研修の感想、意見では、「今までどんな看護師になりたいか明確にすることはできなかったけど、今回の講義で自分のなりたい看護師像が見えてきました。ありがとうございました。」「いい頭の整理の時間になりました。」など好意的な回答が多く見られたことから、研修の目標は達成されたと考えられる。		

研修名	危機的状況における家族ケア		開催日	2025年11月13日
講師	久間朝子（福岡大学病院）		企画	教育委員会
目標	危機的状況に置かれた患者家族の心理状態と、家族の状況に合わせた具体的な対応を理解する。			
受講者概要	応募者:18人	受講者:18人	アンケート回答者数:16人	回答率:88.9%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:16人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:0人、3~5年:0人、6~10年:3人、11~20年:8人、21年以上:5人		
研修内容	研修内容は、家族文化と家族システム、危機的状況に置かれた患者家族の心理状態の理解、家族の状況に合わせた具体的な対応とコミュニケーション、意思決定支援におけるDNARの位置づけ、代理意思決定後の家族支援について講義形式で行われた。また、これまでの家族ケアの経験などについてグループワークが行われた。			
評価	<p>アンケート回答者16名のうち、講義内容の『理解度』『満足度』『活用度』の「できた・おおむねできた」の回答者は100%であった。今後実践できることや実践したいこととして、「オープンクエスチョンを上手くできるように日頃より家族と関わりを持つ時間を作るようにしていきます」「しっかり家族のニーズを引き出せる手法を実践したいと思いました」という意見があった。</p> <p>研修の感想として「とても勉強になりました。DNARの普及に努めます」「危機的状況にある家族の思いに寄り添った対応について学ぶことができました。グループワークにおいては、病院・在宅など提供の場の違いでの看護についても話が聞け、いい機会となりました」との意見があった。講義のあとにグループワークを行い、自施設での家族ケアなどを共有することで、学びを深めることができていた。その結果、理解度や満足度の高評価、研修目標の達成につながったと判断する。</p>			

研修名	予兆を察知！脳血管障害に必要なアセスメント		開催日	2025年11月21日
講師	田栗寛子（社会医療法人十善会 十善会病院）		企画	教育委員会
目標	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメントを理解する。			
受講者概要	応募者:41人	受講者:41人	①対面:16人	②Zoomによるオンライン:25人
			アンケート回答者数39人	回答率:95.1%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:39人、准看護師:0人、その他:0人		
臨床経験年数	3年未満:8人、3~5年:6人、6~10年:9人、11~20年:10人、21年以上:6人			
研修内容	研修内容は、日本における脳卒中の動向、脳と神経機能、脳卒中の分類・治療および看護（発症予防、再発防止も含む）、脳卒中の合併症と予防支援について講義方式で行われた。			
評価	<p>アンケート回答39名のうち、『理解度』の「できた・おおむねできた」の回答者は、90.4%であった。『満足度』の「できた・おおむねできた」の回答者は、94.5%であった。講義を受けて今後実践したいこととして、「離床の重要性を今回改めて理解することができた。ぜひ今回の学びを病棟で実践していきたい」「脳卒中は様々な要因で発生するため自身の健康管理と患者のちょっとした異変に気を配りながら看護していきたい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、対面・オンライン共に「知識が整理できた」との回答が最も多かった。本研修の感想・意見では、「沢山曖昧だったものが理解できよかった」「患者さんの離床を勧めるうえでの注意点や看護師にできることについて参考になる事が多く、研修に参加してよかった」などの高評価の感想が多く受講者の満足度は高かったのが伺える。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目的は達成できたと判断する。</p>			

研修名	消化器領域の検査データの見方・活かし方		開催日	2025年11月22日
講師	奥平定之（奥平外科医院）		企画	教育委員会
目標	消化器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を習得する。			
受講者概要	応募者:21人	受講者:20人	㊶対面:5人	㊷Zoomによるオンライン:14人
	アンケート回答者数:19人		回答率:95%	
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:19人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:2人、3~5年:2人、6~10年:8人、11~20年:4人、21年以上:3人		
研修内容	消化器疾患に関する検査データ（内視鏡検査・超音波検査・レントゲン・CT等）画像診断法、検査データと患者の身体状況との関連について講義形式で行われた。			
評価	<p>アンケート回答者19名のうち、講義内容の『理解度』『満足度』『活用度』の「できた・おおむねできた」の回答者は100%であった。</p> <p>今後実践できることや実践したいこととして、「資料を読み返して、日々の業務を深めたい」「夜間は救急勤務をしていますが、腹痛などの消化器症状を訴える患者及び家族からの受診希望連絡が多数あります。今日の講義を聞いたことで、より判断できるようになるのではないかと考えています」という意見があった。本研修を通しての学びとして、「知識の整理ができた」が95%と最も多く回答されており、研修目標の達成につながったと判断する。</p>			

研修名	ペイシエント・ハラスメントの予防・対応		開催日	2025年11月29日
講師	福崎博孝（弁護士法人ふくざき法律事務所）		企画	教育委員会
目標	医療現場におけるハラスメントの背景・リスク要因を知り、発生後の対応の実際を学ぶ			
受講者概要	応募者:61人	受講者:60人	㊶対面:35人	㊷Zoomによるオンライン:25人
	アンケート回答者数:56人		回答率:93.3%	
	職種	保健師:1人、助産師:1人、看護師:52人、准看護師:2人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:2人、3~5年:4人、6~10年:4人、11~20年:18人、21年以上:28人		
研修内容	研修内容は病院やクリニック等におけるカスタマーハラスメント対策で、事例を上げながら患者・家族との向き合い方についての講義であった			
評価	<p>アンケート回答者56名のうち、『理解度』は「できた」「おおむねできた」が100%、『満足度』は「できた」「おおむねできた」が95.7%、『活用度』は「できる」「おおむねできる」が97%と高く、自由記載でも、実例や対応、法律の知識が深まったこと、ハラスメントの予防のための対策や遭遇時の対応など実践に活かせるなどの意見が複数あり、研修目的は概ね達成できたと考えられる。</p> <p>しかし、『オンライン研修で運営上の問題があったか』の問いに対して、「はい」が91%で、その内容は全員が「音声途切れた」「聞こえない時間があった」の意見であった。</p> <p>実際に、オンラインでの音声トラブルがあり、講師の声が複数回途切れた。原因はWi-Fiの可能性があり、有線で行うことで後半は改善した。</p> <p>今後の対策として、オンライン研修ではパソコンは全て有線でつなぎ対応していくことにする。</p>			

研修名	循環器領域の検査データの見方・活かし方① 【心電図編】		開催日	2025年12月3日
講師	櫻川 浩一郎 (櫻川循環器内科クリニック)		企画	教育委員会
目標	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。			
受講者概要	応募者:51人	受講者:49人	④対面:23人	⑤Zoomによるオンライン: 26人
	アンケート回答者数: 42人		回答率:85%	
	職種	保健師:1人、助産師:1人、看護師:40人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:13人、3~5年:10人、6~10年:13人、11~20年:5人、21年以上:1人		
研修内容	講義形式で行われた。研修内容は、心臓の働きから考える心電図、心電図の見方(正常・異常波形)であった。			
評価	<p>アンケート回答者42名のうち、『理解度』『満足度』『活用度』では、すべて「できた・おおむねできた」と100%が回答した。今後実践したいことについて、「モニターをよく見る。アラームは逃さない。波形がわからなければとにかく患者のもとにいき、状態を確認する」「今後心電図を見る際に、すぐに報告すべき波形である判断や、患者対応に役立てたい」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びで最も多かった回答は、「知識が整理できた」であった。感想には「これまで心電図に対する苦手意識があったが、研修を受講し苦手意識が減った。また、心電図でアラームが鳴った時の対応についても学ぶことができたため、これからの業務に役立てたい」という記載があった。理解度、満足度、活用度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。</p>			

研修名	事例で学ぶ慢性心不全患者の看護		開催日	2025年12月10日
講師	山本かおり(光晴会病院) 馬場妙子(長崎大学病院)		企画	教育委員会
目標	慢性心不全の基礎的知識を習得し、療養支援の実際を知る。			
受講者概要	応募者:24人	受講者:23人	アンケート回答者数: 23人	回答率: 100%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:21人、准看護師:2人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:4人、3~5年:4人、6~10年:4人、11~20年:6人、21年以上:5人		
研修内容	研修内容は、心不全の基礎(原因・メカニズム・症状・治療・検査)、病期におけるケアのポイント、慢性心不全患者の療養支援の実際について講義形式で行われた。また、事例についてグループワークも行われた。			
評価	<p>アンケート回答者23名のうち、講義内容の『理解度』『活用度』の「できた・おおむねできた」の回答者は100%であった。『満足度』は「できた・おおむねできた」の回答者は82.6%であった。</p> <p>今後実践できることや実践したいことでは、「患者さんにとって長い付き合いになるので、指導や説明などを行っていきたいと思いました」「病態や臨床分類等はとても大事なので、学べてよかった」という意見があった。研修の感想として「実践できる内容ばかりでした。現場で活かしていきたいです」との意見があった。一方、「もう少し時間の配慮があればよかったと思いました」「他病院の方との情報共有の場と思っているので、グループワークの時間を増やして欲しい」など講義スケジュールに対する意見があった。講義のあとにグループワークを行ったが、時間の都合上グループワークが短くなってしまったため、今後は研修のスケジュールやグループワーク時間等の検討が必要である。アンケート結果より、研修のスケジュール等に対する意見はあったものの、概ね研修目標は達成されたと判断する。</p>			

研修名	場面に応じたアドバンス・ケア・プランニング (ACP)	開催日	2025年12月12日
講師	会田薫子 (東京大学大学院)	企画	教育委員会
目標	患者、家族の意思決定を支える看護について理解する。		
受講者概要	応募者:54人	受講者:53人	アンケート回答者数:44人
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:43人、准看護師:0人、その他:1人	
	臨床経験年数	3年未満:3人、3~5年:2人、6~10年:3人、11~20年:17人、21年以上:19人	
研修内容	本研修は講義形式で実施された。ACPの基本的な考え方や、対話を通して本人・家族の思いを引き出すことの重要性について講義があった。ClinicalFrailtyScale (CFS) を用いた評価や、事例を通じた意思決定支援の視点など、臨床場面に即した内容であり、日常の関わりの中でACPを進めていく重要性について理解を深める内容であった。		
評価	アンケート回答者44名のうち、『理解度』は「できた・おおむねできた」が97.8%、『満足度』では97.7%、『活用度』では95.5%であった。自由記載では、「患者・家族との日常的な対話の中から思いを汲み取ることの重要性を再認識した」「ACPは特別な場面だけでなく普段の関わりから始まっていることが理解できた」「多職種で情報を共有しながら意思決定支援を行っていききたい」などの意見があった。理解度、満足度、活用度から、本研修の目標は達成したと判断する。		

研修名	循環器領域の検査データの見方・活かし方② 【画像診断編】	開催日	2026年1月21日
講師	櫻川浩一郎 (櫻川循環器内科クリニック)	企画	教育委員会
目標	循環器に関する検査データの見方、活かし方の基礎知識を修得する。		
受講者概要	応募者:23人	受講者:23人	④対面:8名
		アンケート回答者数:22人	⑤Zoomによるオンライン:15名
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:22人、准看護師:0人、その他:0人	
	臨床経験年数	3年未満:7人、3~5年:5人、6~10年:4人、11~20年:5人、21年以上:1人	
研修内容	研修は、講義形式で行われた。研修内容は、循環器の領域の画像や血液検査のデータの見方を病態と関連させた講義内容であった。		
評価	アンケート回答者22名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』では50%、『満足度』『活用度』では共に68%であった。『理解度』『満足度』『活用度』の「できた・おおむねできた」の回答者は7割以下であったが、本研修の学びでは約8割が「知識の整理ができた。」と回答していた。自由回答でも「講義がわかりやすい」「データの見方、検査の意味がわかった」と回答し、概ね研修目標は達成されたと判断する。		

研修名	VRでせん妄体験！ ～ほんとうに必要なですか身体拘束～	開催日	2025年7月19日												
講師	松浦純平(周南公立大学)	企画	教育委員会												
目標	身体拘束の弊害などを理解し知識を学ぶことで身体的拘束を最小限に抑え、患者の尊厳を守るための実践力を高めることができる。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:70人</td> <td>受講者:68人</td> <td>アンケート回答者数:64人</td> <td>回答率:94.1%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:0人、看護師:62人、准看護師:1人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:0人、3～5年:3人、6～10年:17人、11～20年:17人、21年以上:27人</td> </tr> </table>			応募者:70人	受講者:68人	アンケート回答者数:64人	回答率:94.1%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:62人、准看護師:1人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:3人、6～10年:17人、11～20年:17人、21年以上:27人		
応募者:70人	受講者:68人	アンケート回答者数:64人	回答率:94.1%												
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:62人、准看護師:1人、その他0人														
臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:3人、6～10年:17人、11～20年:17人、21年以上:27人														
研修内容	研修は集合研修で講義、演習形式で行われた。講義内容は身体拘束の定義、身体拘束の現状と問題点、倫理的側面、身体拘束ゼロを目指す介入、事例検討、せん妄の種類と発生要因、せん妄疑似体験であった。														
評価	<p>アンケート回答者数64人のうち講義内容について『理解度』は「できた・おおむねできた」の回答者は98.4%であった。『満足度』は「できた・おおむねできた」で100%であった。『活用度』は「できた・おおむねできた」93.8%といずれも高い結果となった。</p> <p>今後実践できることでは「相手の気持ち、状況を理解する。理解しようとした声かけを行う」「VR体験が有効だった」「身体拘束委員会の活動に活用したい」という意見が聞かれた。感想、意見では「実際に身をもって体験することで、せん妄患者さんの気持ちを少しは理解することができたのでは感じた」「患者さんの気持ちを理解し実際に起こっている事象を無視せず対応していきたい」という意見の他「VR機器の調整に時間を要していたので体験時間が短くなったことが残念だった」などの意見も聞かれた。VR体験時間が短かったため、次年度はグループワークの演習形式について講師、研修センター、研修担当者との事前打ち合わせが必要と考える。理解度、満足度、活用度の結果から本研修の目的は達成したと評価する。</p>														

研修名	地域包括ケアシステムを知って 看護の現場に活かそう学ぼう！	開催日	2025年9月3日																
講師	日野出悦子(日本看護協会) 松尾純子(長崎県福祉保健部長寿社会課)	企画	教育委員会																
目標	地域包括ケアシステムの構築・推進に対応するための看護職の役割を理解する。																		
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:32人</td> <td>受講者:31人</td> <td>①対面:7名</td> <td>②Zoomによるオンライン:24名</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">アンケート回答者数:26人</td> <td>回答率:83.8%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:0人、3～5年:3人、6～10年:1人、11～20年:11人、21年以上:11人</td> </tr> </table>			応募者:32人	受講者:31人	①対面:7名	②Zoomによるオンライン:24名		アンケート回答者数:26人		回答率:83.8%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:3人、6～10年:1人、11～20年:11人、21年以上:11人		
応募者:32人	受講者:31人	①対面:7名	②Zoomによるオンライン:24名																
	アンケート回答者数:26人		回答率:83.8%																
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:0人、その他0人																		
臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:3人、6～10年:1人、11～20年:11人、21年以上:11人																		
研修内容	研修内容は、社会保障の関係法規、社会保障制度・保険医療福祉制度、地域包括ケアシステム地域連携における看護職の役割、保健医療福祉制度関連職種の理解であった。																		
評価	<p>アンケート回答者26名のうち、『理解度』の「できた・おおむねできた」は、対面80%、オンライン100%であった。『満足度』の「できた」は、対面0%、オンライン38.1%、「おおむねできた」は、対面40%、オンライン57.1%であった。『活用度』の「できた」は、対面40%、オンライン33.3%、「おおむねできた」は、対面20%、オンライン66.7%であった。</p> <p>講義を受けて今後実践できることや実践したいことでは、「交流会に参加し地域の実情を知り地域課題を明確化できればと思った」「他職種との連携をもっと積極的にしたい」という意見があった。また学びとしては、「医療や看護が従来の病院完結型ではなく地域完結できることが急がれていることを実感した」という意見があった。</p> <p>感想には、「地域完結型の看護医療体制を構築していくために病院医療に携わる看護職に多くの地域資源を発信できればと思った」とあり、本研修の目標は達成できたと判断する。</p> <p>運営上の問題ではオンライン研修の中で、「講義の際の音量が小さく聞こえづらかった」「動画が流れなくて研修時間が少し超過した」という意見があった。</p>																		

研修名	看護師に求められる実践力(3日間コース)		開催日	2025年7月11日～7月31日																	
講師	研修内容参照		企画	研修センター																	
目的	自身のキャリアデザインを描き、看護師に求められる実践力を高めることができる。																				
目標	1) 自身のキャリアデザインを描くことができる。 2) 新人看護職員・実地指導者・プリセプターの支援ができる。 3) 看護実践者としてモデル的役割を果たすことができる。																				
対象	3年目以上の保健師・助産師・看護師（管理者は除く）																				
受講者概要	応募者:16人	受講者 16人	アンケート回答者数:15人	回答率:93.8%																	
	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:14人、准看護師:0人、その他0人																			
	臨床経験年数	3～5年:2人、6～10年:2人、11～20年:6人、21年以上:5人																			
研修内容	回	日時	科目/内容		講師																
	1	7/11 (金) ※公開	9:20～ 9:30～ 15:30	看護師のキャリア支援～自己の看護人生を描く～ ・専門職とはキャリアとは ・看護師に必要なリーダーシップ ・自己の看護の原点を振り返る ・キャリアデザインとは ・今後の自己のキャリア発達を実現するために(演習)		門司 真由美 福岡看護大学															
	2	7/30 (水) ※公開	9:30～ 15:30	看護師だからできる人材育成 ・看護職の生涯学習支援の考え方 ・新人看護職員研修ガイドラインの概要と考え方 ・実地指導者・プリセプターの支援の実際 ・新人看護職員のための学習支援のポイント		江藤 節代 前NPO法人 日本看護キャリア 開発センター															
	3	7/31 (木) ※公開	9:30～ 15:30	看護・人材育成に活かすコーチングスキル ・コーチングの概要、構造、コーチングスキル ・コーチングスキルの実際(演習) ・人材育成に役立つコーチング		江藤 節代 前NPO法人 日本看護キャリア 開発センター															
評価	<p>プログラム3日間はすべて集合研修で実施した。研修内容は、看護職としての自分の役割や働き方を見つめ直し、演習を通して課題解決力を身につける内容であった。アンケート回答者15名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』『活用度』すべて9割を超えていた。</p> <p>研修全体の学び・感想では「講義で理解できても、実際にグループワークを行うとコーチングスキルを活用することが難しいと感じた。少し意識をするだけでも、相手に与える印象は変わると思うので、明日から取り組んでいきたいと思う」など高評価の意見が多数あったため、目標は達成できたと判断する。</p>																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>おおむねできる</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>51%</td> <td>47%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>69%</td> <td>29%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>73%</td> <td>27%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>					項目	できる	おおむねできる	できない	理解度	51%	47%	2%	満足度	69%	29%	2%	活用度	73%	27%	0%
項目	できる	おおむねできる	できない																		
理解度	51%	47%	2%																		
満足度	69%	29%	2%																		
活用度	73%	27%	0%																		

研修名	看護師のキャリア支援～自己の看護人生を描く～ (看護師に求められる実践力研修公開)	開催日	2025年7月11日												
講師	門司真由美(福岡看護大学)	企画	研修センター												
目標	自身のキャリアデザインを描くことができる。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:12人</td> <td>受講者10人</td> <td>アンケート回答者数:10人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:0人、看護師:9人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:0人、3～5年:0人、6～10年:1人、11～20年:5人、21年以上:4人</td> </tr> </table>			応募者:12人	受講者10人	アンケート回答者数:10人	回答率:100%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:9人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:0人、6～10年:1人、11～20年:5人、21年以上:4人		
応募者:12人	受講者10人	アンケート回答者数:10人	回答率:100%												
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:9人、准看護師:0人、その他0人														
臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:0人、6～10年:1人、11～20年:5人、21年以上:4人														
研修内容	<p>看護師に求められる実践力3日間コース研修の第1回目の公開研修であった。</p> <p>研修内容は、専門職とはキャリアとは、看護師に必要なリーダーシップ、自己の看護の原点を振り返る、キャリアデザインとは、自己のキャリア発達について演習も取り入れた講義であった。</p>														
評価	<p>アンケート回答者10名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』『活用度』すべてで100%だった。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「自分の姿を見て学んでもらえるよう自身もまた頑張りたいと思った。キャリアのことも考えていきたいと思った。」「キャリアのことはすぐには決まららないですが、受講できて良かったです。」など、受講者の満足度が高かったことから、研修の目的は達成できたと考える。</p>														

研修名	看護師だからできる人材育成 (看護師に求められる実践力研修公開)	開催日	2025年7月30日												
講師	江藤節代(前NPO法人日本看護キャリア開発センター)	企画	研修センター												
目標	新人看護職員・実地指導者・プリセプターの支援ができる。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:28人</td> <td>受講者28人</td> <td>アンケート回答者数:26人</td> <td>回答率:92.9%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:0人、看護師:25人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:0人、3～5年:1人、6～10年:4人、11～20年:7人、21年以上:14人</td> </tr> </table>			応募者:28人	受講者28人	アンケート回答者数:26人	回答率:92.9%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:25人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:1人、6～10年:4人、11～20年:7人、21年以上:14人		
応募者:28人	受講者28人	アンケート回答者数:26人	回答率:92.9%												
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:25人、准看護師:0人、その他0人														
臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:1人、6～10年:4人、11～20年:7人、21年以上:14人														
研修内容	<p>看護師に求められる実践力3日間コース研修の第2回目の公開研修であった。</p> <p>研修内容は、看護職の生涯学習支援の考え方、新人看護職員研修ガイドラインの概要と考え方、実地指導者・プリセプターの支援の実際、新人看護職員のための学習支援のポイントについて、講義形式で行われた。</p>														
評価	<p>アンケート回答者26名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』『活用度』すべてで9割を超えていた。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは「対話を大切にして、新人や学生が主体的に学習できるような働きかけをしていきたいです」「成人学習の考え方をスタッフで共有して、新人教育に活かせそうだと感じました」「相手を尊重し対話する。育てるのではなく育つことを意識した支援を行う」など高評価の意見が多く、『理解度』『満足度』『活用度』の結果からも目標は達成できたと判断する。</p>														

研修名	人材育成に活かすコーチングスキル (看護師に求められる実践力研修公開)	開催日	2025年7月31日
講師	江藤節代(前NPO法人日本看護キャリア開発センター)	企画	研修センター
目標	人材育成に必要なコーチングスキルを学び実践に活かすことができる。		
受講者概要	応募者:34人	受講者:34人	アンケート回答者数:32人
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:32人、准看護師:0人、その他0人	
	臨床経験年数	3年未満:0人、3~5年:3人、6~10年:3人、11~20年:14人、21年以上:12人	
研修内容	看護師に求められる実践力3日間コース研修の第3回目の公開研修であった。研修内容は、コーチングの概要、人材育成に活かすコーチングスキル、グループに分かれ事例に沿ってコーチングスキルを使ってシナリオを作成し発表まで行った。		
評価	<p>アンケート回答者32名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』『活用度』すべて100%であった。</p> <p>講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは「新人教育に活かしたい」「できないことだけに視点を向けるのではなく相手のできている所に目を向けてその都度一緒に振り返りを行いたい」という意見があった。アンケート結果からも満足度が非常に高い研修であることが伺えるため、研修の目標は達成できたと判断する。</p>		

研修名	スタッフ指導における「気になる」を解決！ 個性を活かす関わりと支援しやすい職場作り	開催日	2025年10月4日
講師	角田直枝(常磐大学)	企画	教育委員会
目標	「気になる」看護師の判断と効果的で具体的な指導方法を理解する。		
受講者概要	応募者:26人	受講者:26人	アンケート回答者数:26人
	職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:24人、准看護師:0人、その他0人	
	臨床経験年数	3年未満:0人、3~5年:0人、6~10年:7人、11~20年:8人、21年以上:11人	
研修内容	研修内容は、「気になる」看護師の把握と理解・円滑な業務遂行のための支援、業務における問題への対応・支援を求めやすく、支援しやすい職場づくりの要件と考え方・演習(指導困難事例体験の共有)であった。		
評価	<p>アンケート回答者26名のうち、『理解度』『満足度』の「できた・おおむねできた」は96.1%であった。『活用度』は「できる・おおむねできる」が88.5%であった。</p> <p>今後実践できること、したいことは、「発達障害の特徴を持つ人への工夫の仕方は実践に繋げることができるため職場へ持ち帰り実践したい」「学生指導も行うので具体的に一つずつ説明・指導していきたい」「変わった人とレッテルを貼る前に、その人の特性を冷静に見極め対応する」など、前向きな意見であった。</p> <p>研修の感想・意見には「対応に困るスタッフの指導など難しく、どうしていいのかわからなかったが、研修を受け小さなきっかけから糸口を見つけられること、簡単にあきらめずに根気よく接することが大切なことを学んだ。グループワークでも同じようなことで悩んでいる方もいて、話せる場があってよかった」などがあった。今後の指導に活かせるという意見が多かったため、本研修の目標は達成できたと判断する。</p>		

研修名	はじめてのリーダー ～看護職に求められるリーダーシップ～	開催日	2025年10月22日												
講師	江藤節代（前NPO法人日本看護キャリア開発センター）	企画	教育委員会												
目標	リーダーシップを発揮するために必要な基本知識を学び、チームでの役割を理解する。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:32人</td> <td>受講者 31人</td> <td>アンケート回答者数:29人</td> <td>回答率:93.5%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:1人、看護師:28人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:3人、3～5年:14人、6～10年:4人、11～20年:5人、21年以上:3人</td> </tr> </table>			応募者:32人	受講者 31人	アンケート回答者数:29人	回答率:93.5%	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:28人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:3人、3～5年:14人、6～10年:4人、11～20年:5人、21年以上:3人		
応募者:32人	受講者 31人	アンケート回答者数:29人	回答率:93.5%												
職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:28人、准看護師:0人、その他0人														
臨床経験年数	3年未満:3人、3～5年:14人、6～10年:4人、11～20年:5人、21年以上:3人														
研修内容	研修は講義、演習形式で行われた。講義内容はリーダーシップとは、臨床におけるリーダーの役割と機能、リーダーシップとマネジメント、リーダーに求められるチーム運営力、自己の課題であった。														
評価	アンケート回答者数31人のうち、『理解度』『満足度』では「できた・おおむね理解できた」と96.5%が回答した。『活用度』は「できた・おおむねできた」と100%が回答した。『活用度』では「自分の意見をはっきり伝える。」「今後リーダーをする時に学んだことを活かしていきたいです。」「PM理論を意識して自己修正を行った関わりを持つ。」という意見があった。研修を通しての学びで最も多かった回答は「知識の整理ができた」であった。感想では「とても参考になりました。」という意見が聞かれた。リーダー初心者だけでなく、主任クラスの参加もあり関心の高さが伺えた。理解度、満足度、活用度の結果から、本研修の目的は達成したと評価する。														

研修名	知っておこう!組織で進める生涯学習支援 ～生涯学習ガイドラインの基礎知識～	開催日	2025年10月23日												
講師	吉田佳織、富山ルミ（諫早総合病院）	企画	研修センター												
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職の生涯学習に関する現状と課題から、生涯学習の必要性を理解することができる。 2. 個々の看護職への主体的学習、キャリア形成への支援を理解することができる。 3. 組織における生涯学習支援の必要性を理解し、自施設への取り組む方向性について考えることができる。 														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:12人</td> <td>受講者 12人</td> <td>アンケート回答者数:12人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:0人、看護師:11人、准看護師:0人、その他0人</td> </tr> <tr> <td>臨床経験年数</td> <td colspan="3">3年未満:0人、3～5年:0人、6～10年:1人、11～20年:6人、21年以上:5人</td> </tr> </table>			応募者:12人	受講者 12人	アンケート回答者数:12人	回答率:100%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:11人、准看護師:0人、その他0人			臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:0人、6～10年:1人、11～20年:6人、21年以上:5人		
応募者:12人	受講者 12人	アンケート回答者数:12人	回答率:100%												
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:11人、准看護師:0人、その他0人														
臨床経験年数	3年未満:0人、3～5年:0人、6～10年:1人、11～20年:6人、21年以上:5人														
研修内容	研修は、「組織で行う生涯学習支援の基礎知識」日本看護協会作成のコンテンツを活用し講義形式で行われた。研修内容は、社会の変化に対応する看護職の生涯学習支援、組織における生涯学習支援、自施設における生涯学習と組織支援および教育計画の研修による支援の実際(演習)であった。														
評価	アンケート回答者12名のうち、「できた・おおむねできた」の回答者は、『理解度』『満足度』で9割を超えていた。 講義を受けて、今後実践できること、実践したいことでは、「若手の看護師の教育がなかなか進まないこともあり、持ち帰り生涯学習の責務について伝達したいと思った。」「他施設の方の取り組みなど、参考にできる点が多く学びを深めることができました。」などアンケート結果では、好意的な意見が多く見られたことから、研修の目標は達成されたと考えられる。														

研修名	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第1回】		開催日	2025年12月16日 2025年12月17日
講師	江藤節代（前NPO法人日本看護キャリア開発センター）		企画	教育委員会
目標	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師のビジョンを明確にする。			
受講者概要	応募者:60人	受講者:58人	アンケート回答者数54人	回答率:93.1%
	職種	保健師:0人、助産師:2人、看護師:52人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:11人、3～5年:27人、6～10年:5人、11～20年:8人、21年以上:3人		
研修内容	研修は講義、演習形式で行われた。講義内容は新人看護職員の特徴、新人看護職の生涯学習支援、プリセプターの役割、コーチングを活用した学習支援、プリセプターとしての今後の取り組みであった。			
評価	<p>アンケート回答者数54名のうち、『理解度』では「できた・おおむねできた」が100%、『満足度』『活用度』では「できた・おおむねできた」と96.3%が回答した。今後実践したいことについて、「コーチングスキルを活かして、本人の気づきを促し言語化できるようなサポートを行っていきたい」や「プリセプターの声をもっと聞こうと思った。言語化することが自分自身も苦手なため、自分の今後の課題も見つけることができた」などの意見があった。</p> <p>感想では、「学びになりました。実際に役立てられるようにしたい」や「新人教育もですが、日常的にも使えるスキルのため大変充実した時間でした。」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、活用度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。</p>			

研修名	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～【第2回】		開催日	2026年1月13日 2026年1月14日
講師	江藤節代（前NPO法人日本看護キャリア開発センター）		企画	教育委員会
目標	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンを明確化する。			
受講者概要	応募者:52人	受講者:50人	アンケート回答者数49人	回答率:98.0%
	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:48人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:10人、3～5年:26人、6～10年:6人、11～20年:4人、21年以上:3人		
研修内容	研修は講義、演習形式で行われた。講義内容は新人看護職員の特徴と生涯学習支援、プリセプターの役割、3つのコーチングスキル（聴く、伝える、質問する）を活用した対話と支援、ワークショップ（学習支援、精神的支援の場面について）であった。			
評価	<p>アンケート回答者数49人のうち、『理解度』『満足度』では「できた・おおむね理解できた」と97.9%が回答した。『活用度』は「できた・おおむねできた」と100%が回答した。『活用度』では「とても勉強になり、今後の指導に役立てると思います。新人との対話だけでなく、チーム全体としても使えるスキルだと思います」「つつい自分で新人の問題点を探して伝えてしまうことがあるけど、まずはゼロポジションに戻って一緒に問題点や解決策を探していけるようにしたいと思いました」という意見があった。</p> <p>研修を通しての学びで最も多かった回答は「知識の整理ができた」であった。感想では「今回の学びを通して、プリセプターを行うことに自信がなかったですが、今回の研修で繋がったと思います。」「できれば上司や先輩の方にも聞いてもらいたい内容でした」という意見が聞かれた。様々な年代の受講者と第1回に続き高評価の感想が多く、関心度と満足度の高さが伺えた。理解度、満足度、活用度の結果から、本研修の目的は達成したと評価する。</p>			

研修名	看護マネジメントリフレクション	開催日	2025年10月18日	
講師	河野 秀一 (株式会社サフィール)	企画	教育委員会	
目標	マネジメントリフレクションで管理の質の向上を目指す。			
受講者概要	応募者:26人	受講者:26人	アンケート回答者数:23人	
	職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:21人、准看護師:0人、その他:0人		
	臨床経験年数	3年未満:0人、3~5年:0人、6~10年:0人、11~20年:5人、21年以上:18人		
研修内容	研修内容は、看護マネジメントリフレクションの基本、正しいリフレクションの手順(演習)であった。			
評価	<p>アンケート回答者数23名のうち、『理解度』『満足度』では、ともに「できた・おおむねできた」と95.6%が回答した。また『活用度』では「できた・おおむねできた」と86.9%が回答した。</p> <p>今後実践したいことについて、「病棟管理の中で、面談やスタッフ指導で感じたモヤモヤに活用していきたいです。」「スタッフ1人1人をきちんとみて、承認する声かけをしていきます。スタッフから言われたことに、きちんとフィードバックをしていきます。壁に当たった時には、リフレクションを行って、事実と感情を分けて分析して行動していきます。」などの意見があった。</p> <p>本研修を通しての学びでは、「思考が明確になった」が22.4%で最も多かった。感想では、「今までずっとモヤモヤしていたことが解決に繋がりそうです。スタッフを認め、一緒に病棟運営をすすめる働きやすい環境を提供できるように頑張ります。」「本研修に参加し、背中を押された気持ちでした。力をいただき、改めて現場で活用していきたい。」など、高評価の感想が多くあり、受講者の満足度が高かったことが伺えた。理解度、満足度、研修の感想から、本研修の目標は達成したと判断する。</p>			

認定看護管理者教育課程

I. ファーストレベル

1. 教育目的

看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。

2. 到達目標

- 1) ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。
- 2) 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。
- 3) 看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。

3. カリキュラム

教科目	単元	教育内容	講師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅰ	社会保障制度概論	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の体系 ・社会保障の関連法規 	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの提供体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉制度の体系 ・地域包括ケアシステム ・地域共生社会 		
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・看書連携 ・地域連携における看護職の役割 ・保健医療福祉関連職種への理解 ・看護の社会的責務と業務基準 看護関連法規 倫理綱領 看護業務基準 	益富美津代	
組織管理論Ⅰ	組織マネジメント概論	<ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメントに関する基礎知識 ・看護管理の基礎知識 	倉岡有美子	15
	看護実践における倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践における倫理的課題 ・倫理的意思決定への支援 	永石 恵美	
人材管理Ⅰ	労務管理の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法規・就業規則 ・健康管理（メンタルヘルスを含む） ・雇用形態・勤務体制 ・ワークライフバランス ・ハラスメント防止 	山内小百合	30
	看護チームのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・チームマネジメント ・看護ケア提供方式 	井口恵美子	
		<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップとメンバーシップ ・コミュニケーション ・ファシリテーション 	江藤 節代	
		<ul style="list-style-type: none"> ・准看護師への指示と業務 ・看護補助者の活用 	谷尾佐知子	
人材育成の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・成人学習の原理 ・役割理論 ・動機づけ理論 ・人材育成の方法 	江藤 節代		
資源管理Ⅰ	経営資源と管理の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・診療・介護報酬制度の理解 ・経営指標の理解 ・看護活動の経済的効果 	岡田みずほ	15
	看護実践における情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・看護情報の種類と特徴 ・情報管理における倫理的課題（情報リテラシー） 	宇都由美子	
質管理Ⅰ	看護サービスの質管理	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの基本概念 ・看護サービスの質評価と改善 	佐田 明子	15
		<ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスの安全管理 ・看護サービスと記録 	幸 史子	
統合演習Ⅰ	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する。 	演習支援者 専任教員	15

レポートの書き方 3時間	看護管理実践計画発表会 6時間	総時間数 114時間
--------------	-----------------	------------

4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年間以上ある者。
- 3) 管理業務に関心がある者。

5. 日程・応募・受講状況

(人)

	実施期間	定員	応募者	決定者	受講者	修了者
第1回	5月15日(木)～9月20日(土) (20日間)	90	82	37	37	37
第2回	10月2日(木)～令和7年1月31日(土) (20日間)			45	45	43

6. 受講者職位

(人)

職位	部長	副部長 管理者	師長・課長	副師長・主任 師長補佐・係長	副主任	看護師	計
第1回	1	1	8	19	1	7	37
第2回	0	0	6	29	3	7	45
合計	1(1.2%)	1(1.2%)	14(17.1%)	48(58.5%)	4(4.9%)	14(17.1%)	82(100%)

7. 受講修了者所属施設

(人)

床	19床以下	20～99	100～199	200～299	300～399	400～499	500～599	600～699	700～799	病床なし
1回	4	6	9	5	4	2	2	0	5	0
2回	1	3	9	9	9	0	5	3	5	1
合計	5(6.1%)	9(11.0%)	18(22.0%)	14(17.1%)	13(15.9%)	2(2.4%)	7(8.5%)	3(3.7%)	10(12.2%)	1(1.2%)

8. 各教科目の理解度、活用度（講義終了時の受講者評価）

「理解できた」4点、「まあまあ理解できた」3点、「あまり理解できない」2点、「理解できない」1点の平均値
 「活用できる」4点、「まあまあ活用できる」3点、「あまり活用できない」2点、「活用できない」1点の平均値

教科目	単元	第1回	第1回	第2回	第2回
		理解度	活用度	理解度	活用度
ヘルスケア システム論 I	社会保障制度概論・保健医療福祉サービスの提供体制	3.27	3.51	3.16	3.33
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	3.70	3.70	3.73	3.67
組織管理論 I	組織マネジメント概論	3.57	3.65	3.47	3.71
	看護実践における倫理	3.86	3.89	3.73	3.80
人材管理 I	労務管理の基礎知識	3.78	3.89	3.64	3.68
	看護チームのマネジメント	3.72	3.80	3.72	3.79
	人材育成の基礎知識	3.76	3.86	3.59	3.77
資源管理 I	経営資源と管理の基礎知識	3.41	3.65	3.16	3.32
	看護実践における情報管理	3.75	3.75	3.61	3.66
質管理 I	看護サービスの質管理	3.70	3.84	3.70	3.75
統合演習 I	演習	3.84	3.92	3.75	3.77

9. まとめ

2025年度より、第1回・第2回の応募は同時に募集した。どちらも募集定員45名で、計90名だったが、82名と定員割れとなり、第1回は5月に37名、第2回は10月に45名で開講した。受講者の職位別では、副師長・主任相当48名(58.5%)と最も多い。看護師(職位なし)は14名(17.1%)だった。看護師長相当以上の職位での参加は16名(19.5%)で前年の12人(13.2%)より多かった。受講者の病床規模別では、100～199床18人(22.0%)が最も多い。病床なし(訪問看護ステーション)1名、19床以下5名であった。授業形態は、集合形態を基本とし、2つの単元では、オンライン授業を取り入れている。

各教科目の「理解度」「活用度」を4段階評価で行った。今年度の特徴は、「看護実践における倫理」が理解度(第1回・2回 平均3.80)・活用度(第1回・2回 平均3.85)とも例年より高い値だった。職場での倫理カンファレンス、意思決定支援などの課題解決に有益な講義となっている。「社会保障制度概論」「経営資源と管理の基礎知識」は例年と変わらず低かった。授業に出てくる単語になじみがない、情報量が多いなどの感想もあったが、地域医療構想、診療報酬改定などについて学ぶことで、現状の背景が明らかになりさらに学びを深めたいという意見も多くあった。人材管理Iの3つの単元は、日頃の実践と結びつけながら講義を受けることで根拠を明確にすることができ、演習課題にも活用することができる機会となっている。

統合演習Iでは、グループワーク中心の演習を行ったが、グループダイナミクスを活用し、自己の課題を明確にし、実践計画を立案することができた。実践計画の実施、評価、まとめを行いフォローアップ研修へとつながっている。

II. セカンドレベル

1. 教育目的

看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。

2. 到達目標

- 1) 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。
- 2) 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。

3. カリキュラム

教科目	単 元	教 育 内 容	講 師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	・日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の（財源）構造と推移	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの現状と課題	・保健医療福祉サービスの提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、 訪問看護ステーション等	川崎 涼子	
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	・多職種によるチームケア提供の実際と課題	平山 香織	
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	・組織分析	木下日出美	30
		・組織の変革	倉岡有美子	
		・組織の意思決定	坂井 和子	
	看護管理における倫理	・看護管理における倫理的課題 ・看護管理における倫理的意思決定	倉岡有美子	
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	・人員配置 ・勤務計画 ・ワークライフバランスの推進	楠本 美和	45
		・ストレスマネジメント ・タイムマネジメント	松本とよか	
		・労働災害とその対策 ・労務管理に関する今日的課題 ・ハラスメント予防策と対応	山内小百合	
	多職種チームのマネジメント	・人的資源の活用 ・リーダーシップの実際	中尾 優子	
		・コンフリクトマネジメント	岐部 千鶴	
		・看護補助者の育成	岡田美佐子	
	人材を育てるマネジメント	・キャリア開発支援 ・人材育成計画	中尾 優子	
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	・医業収支 ・費用対効果 ・経営指標の活用 ・適切な療養環境の整備	岡田みずほ	15
	看護管理における情報管理	・看護の評価 ・改善のための情報活用	宇都由美子	
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	・クオリティマネジメント	小淵美樹子	30
		・医療・看護におけるクオリティマネジメント	大重 育美	
	安全管理	・安全管理の実際 ・法令遵守 ・安全管理教育	鮎澤 純子	
		・災害対策	福島 明子	
統合演習Ⅱ	演習	・自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する。	演習支援者	45
	実習	・地域連携を理解するための他施設実習を行う。 (実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする)	石丸 貴敏 実習担当者 専任教員	
看護管理実践計画発表会 3時間			総時間数	183時間

4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許取得後、実務経験が通算5年以上ある者。
- 3) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者。または、看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者。

5. 日程・応募状況・受講状況

(人)

実施期間	定員	応募者	応募者施設	決定者	受講者	修了者
6月26日～12月14日のうち31日間	35	31	18	31	31	31

6. 受講者基本情報

1) 職位

(人)

副部長	師長等	副師長・主任	訪看 ST 所長	計
1	15	14	1	31

2) 所属施設の病床数

(人)

20～99床	100～199床	300～399床	500床以上	病床なし	計
1	9	5	15	1	31

7. 各教科目の理解度・活用度（講義終了時の受講者評価）

「理解できた」4点、「まあまあ理解できた」3点、「あまり理解できない」2点、「理解できない」1点の平均値
 「活用できる」4点、「まあまあ活用できる」3点、「あまり活用できない」2点、「活用できない」1点の平均値

教科目	単元	理解度	活用度
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	3.35	3.45
	保健医療福祉サービスの現状と課題	3.77	3.74
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	3.58	3.74
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	3.60	3.76
	看護管理における倫理	3.55	3.77
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	3.82	3.89
	多職種チームのマネジメント	3.75	3.76
	人材を育てるマネジメント	3.74	3.84
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	3.71	3.74
	看護管理における情報管理	3.71	3.74
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	3.65	3.79
	安全管理	3.79	3.87
統合演習Ⅱ	演習	3.93	3.93
	実習（講義）	3.48	3.48

8. まとめ

2025年度の応募者数は、募集定員35名中31名と定員割れとなった。受講者の職位別では、看護師長職16人(51.6%)と最も多く、次いで副看護師長・主任職14人(45.2%)であった。前年度同様に看護師長職が多かったが、副看護師長・主任職が対前年度差15.5ポイント増加した。所属施設の病床規模別では、199床以下では11人(35.4%)と前年度差13.8ポイント増加し、200床以上20人(64.5%)と前年度差13.9ポイント減少した。各教科目の「理解度」「活用度」を4段階評価で行った。理解度の高い教科目は、「人材管理Ⅱ」であった。日頃の業務で実践している内容であり、受講者の知識のスキルアップや、業務に活用できる知識を得たためと考える。活用度の高い教科目「質管理Ⅱ」では、事前課題において自施設の災害対応について調べる機会を持ち、自施設の役割を強く認識する事ができ高評価に繋がっている。評価が低い教科目は、「ヘルスケアシステム論Ⅱ」であったが、受講者から、学ぶことで診療報酬改定の仕組みや次年度の改訂に関する情報に触れる事ができ、非常に有益な学びとなったと理解を深めている。研修から得る理論づけた学びを通して、必要な理論と実践を結び付けて、看護管理実践に役立つヒントに繋がることを期待する。統合演習Ⅱの「演習」では、内部環境や外部環境を分析することから始まり、現状分析に必要なデータ集めを行い、看護サービス上の課題を明確にしていった。小グループに分かれ5回の演習を通して、演習支援者やグループメンバーのアドバイスから、多様な視点の意見を受けて、新たな発見が多く非常に有難い学びとなっていると、理解を深める事ができており、学習した内容を統合した学びに繋げる事ができている。「実習」は、県内20施設の協力を得て実習を実施した。実習を通して、地域連携における看護管理者の役割では、自施設の役割をしっかりと理解する事の大切さや、患者の生活を見据えた看護の提供、受け手が求める看護サマリの必要性など明確にしていた。

IV. その他 一般研修～アンケート結果からみた研修の理解度・満足度・活用度割合～

1. 研修分類1 33研修 実施



